

平成 2 1 年 度
(2 0 0 9)

病 院 年 報

市 立 敦 賀 病 院

病 院 理 念

市立敦賀病院は、

信頼され、温もりのある

医療をめざします。

基 本 方 針

患者さん中心の心のかよう医療を行います。

患者さんにやさしい、開かれた病院をつくります。

質の高い効率的な医療をわかりやすく提供します。

職 員 指 標

礼 儀 ・ 親 切 ・ 情 熱 ・ 責 任 ・ 技 能

はじめに

市立敦賀病院 院長 米島 學

この度、平成 21 年度の市立敦賀病院年報を発刊するはこびとなりました。平成 19 年度からは病院年報を業績集および看護部のあゆみとあわせるかたちで発刊しています。

より安全で良質な医療を提供するため病院の IT 化を進め、平成 21 年 1 月には電子カルテを導入しました。平成 21 年度は DPC 準備病院に手上げをしましたので、平成 23 年には DPC 病院に移行する予定です。

平成 21 年度に産婦人科医師が一時的に減少するなど引き続き医師不足は続いておりますが、各医師は協力し合い地域医療に邁進しています。平成 21 年度は新型インフルエンザが流行しましたが、当院では速やかに発熱外来を設け、入院患者も受け入れ、地域中核病院としての役割は果たしたと自負しています。これも職員の自覚と努力のたまものと感謝しています。

教育面でも、引き続き基幹型臨床研修病院の指定をいただき、平成 21 年度には 3 名、22 年度には 6 名の初期研修医を迎え、指導医のもとで日々研鑽を積んでいます。

市立敦賀病院は福井県嶺南地域の中核病院であり、嶺南地域の方々の病気を治療し、健康管理に寄与するための病院です。そのためには、病診連携をさらに強め、患者様のみならず診療所の先生方にもさらに信頼されるよう努めていかなければならないと考えています。

医療制度改革により、自治体病院を取り巻く環境は厳しい状態が続いています。平成 19 年度の「市立敦賀病院のあり方検討委員会」の答申を基に、平成 20 年 12 月に「市立敦賀病院中期経営計画」を作成し、平成 21 年度から 5 カ年計画で取り組み始めました。平成 22 年 2 月には外部評価委員をまじえた市立敦賀病院中期経営計画点検・評価委員会を設置しました。市立敦賀病院は、患者様中心の医療を続けることこそが経営改善に繋がると考えております。健やかで豊かな地域社会の実現に貢献するため、職員一同、さらなる努力を行ってまいります。

最後に指導医派遣にご尽力をいただいております大学当局並びに県医療行政各位に心から感謝申し上げますとともに、今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 22 年 8 月

目 次

I 病院の沿革及び現況

1	病院の沿革	1
2	病院の概要	2
3	施設の概要	4
4	設備の概要	4
5	組織図	5
6	職員の現況	6
7	入院部屋数	7
8	経営の概要	8
9	経営分析	9
10	委員会等	11

II 決算概要

1	収益的収入及び支出	17
2	資本的収入及び支出	19
3	貸借対照表	19
4	診療行為別診療収入の状況	20
5	診療科別診療収入の状況	21

III 各部署の活動状況

1	診療部	25
(1)	診療各科	25
2	医療支援部	25
(1)	医療・福祉相談支援室	25
(2)	地域医療連携室	25
(3)	医療安全管理室	27
3	医療技術部	27
(1)	検査室	27
(2)	放射線室	28
(3)	リハビリテーション室	29
(4)	臨床工学技術室	29
(5)	栄養管理室	30
4	薬剤部	30

(1) 薬剤室	30
5 看護部	32
6 事務局	33
(1) 総務企画課	33
(2) 医療サービス課	34

IV 業務の概要

1 患者の状況	37
(1) 入院・外来別患者数	37
(2) 患者数の推移	37
(3) 診療科別患者数	38
(4) 市町村別患者数	39
(5) 月別患者数	40
(6) 救急患者の取扱状況	42
(7) 患者搬送の状況	45
2 総合健診の状況	46
3 中央手術室業務の状況	47
4 種類別麻酔件数	47
5 内視鏡検査件数	47
6 周産期医療の状況	48
7 薬剤室業務の状況	49
(1) 調剤業務の状況	49
(2) 薬品の状況	49
(3) 服薬指導の状況	49
(4) 注射剤調製の状況	49
8 放射線科(室)の状況	50
(1) 撮影の状況	50
(2) フィルム使用の状況	50
(3) 血管撮影検査の状況	50
(4) MRI検査の状況	50
(5) CT検査の状況	50
(6) 核医学検査の状況	51
(7) 放射線治療の状況	51
(8) マンモグラフィーの状況	52
(9) 骨密度検査の状況	52
(10) エコー検査の状況	52

9	人工透析の状況	52
10	臨床検査の状況	53
	(1) 各種検査件数	53
	(2) 生理機能検査件数	53
	(3) 血液製剤使用量	54
11	リハビリテーションの状況	54
12	患者給食の状況	55
13	死亡患者数及び病理解剖件数	55
14	地域医療連携の状況	56
	(1) 紹介及び逆紹介の状況	56
	(2) 亜急性期病床の状況	56
	(3) ボランティアの活動状況	56
15	医療安全の状況	56
	(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況	56
	(2) 根本原因分析の実施状況	56
16	災害医療部会の活動状況	57
17	救急蘇生法普及部会の活動状況	58
18	TQM委員会の活動状況	59

V 固定資産状況

1	有形固定資産の取得状況	61
2	主要医療機器の設置状況	61
3	企業債・減価償却の状況	62
	(1) 企業債の年度別状況	62
	(2) 減価償却額の年度別状況	62

VI 研究業績

1	診療部	63
2	医療支援部	71
3	医療技術部	71
4	薬剤部	72
5	看護部	73
6	臨床病理検討会	75

VII 看護部実績

1	記録監査委員会活動報告	77
---	-------------	----

2	セーフティーマネージャー委員会活動報告	78
3	教育委員会活動報告	80
4	教育研修実績	86
(1)	院内研修実績	86
(2)	院外研修実績	87
(3)	受講研修実績	90

Ⅷ 臨床研修プログラム概要

	平成21年度市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績	91
--	----------------------------	----

参考資料

○	市立敦賀病院中期経営計画概要	95
○	市立敦賀病院の患者権利章典	97
○	医療事故防止のための8カ条	99

I 病院の沿革及び現況

1 病院の沿革

明治15年 2月	県立敦賀病院開設
明治24年 4月	郡制施行に伴い郡立敦賀病院に改称
大正12年 4月	郡制廃止により敦賀郡町村組合立病院に改称
昭和18年 4月	日本医療団へ現物出資
昭和24年 2月	病院開設許可（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
昭和24年 4月	日本医療団より全施設組合に返還
昭和30年 1月	町村合併により市立敦賀病院に改称
昭和38年 3月	2ヵ年度継続事業で病院本館、鉄筋コンクリート造・4階建 全面改築（4,487㎡）完成（一般172床、伝病20床、結核40床）
昭和44年10月	2ヵ年度継続事業で救急診療棟、鉄筋コンクリート造・4階建 増設（2,190㎡）完成（一般232床、伝病25床、結核40床）
昭和48年 4月	医師住宅1号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（7戸）完成
昭和49年 4月	医師住宅2号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（8戸）完成
昭和54年 5月	木造病棟を取り壊し、中央診療棟（放射線部門・手術部門病棟） 鉄筋コンクリート造・4階建増改築（3,223㎡ ^① ）完成 （一般276床、伝病25床、結核28床）
昭和62年10月	3ヵ年度継続事業で本館診療棟、鉄筋コンクリート造・7階建 増改築（12,068㎡ ^② ）完成（合計床面積 18,454㎡） （一般276床、伝病25床）
平成元年10月	神経科精神科（外来）開設
平成5年 4月	循環器科・消化器科・麻酔科開設
平成6年10月	3ヵ年度継続事業で東診療棟、救急診療棟、鉄筋コンクリート造 5階建増改築（6,486㎡ ^③ ）完成 （東病棟…完成・同年4月、運用開始・同年6月） （合計床面積 ^{①②③} 21,777㎡） （一般348床、伝病10床）
平成7年 1月	土曜閉院完全実施
平成7年12月	3ヵ年度継続事業で電算情報トータルシステム整備完了
平成9年 3月	医師住宅及び駐車場敷地購入（3,906.06㎡）
平成10年11月	医師住宅新築工事竣工 鉄筋コンクリート造・5階建（2,520.96㎡） 妻帯用12戸、単身用8戸
平成11年 1月	旧医師住宅解体
平成11年 4月	第二種感染症指定医療機関に指定（一般348床、感染症2床）
平成12年 3月	立体駐車場完成 鉄骨造2階建（4,273.18㎡）（253台収容）
平成14年 9月	神経内科開設
平成15年 9月	第3次整備建設着工（平成15年度～平成18年度継続事業）
平成15年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43号取得
平成15年11月	厚生労働省管理型臨床研修病院指定 第030944号
平成17年 3月	第3次整備建設工事のうち北診療棟（7,815㎡）完成
平成18年 7月	リハビリテーション科開設
平成18年12月	第3次整備建設工事完成
平成20年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-2号取得（更新）
平成20年12月	中期経営計画策定
平成21年 1月	電子カルテ導入
平成22年 4月	給食業務全面委託開始

2 病院の概要（平成22年7月1日現在）

- 名 称 市立敦賀病院
- 所在地 福井県敦賀市三島町1丁目6番60号
- 開設者 敦賀市
敦賀市長 河瀬一治
- 管理者 病院長 米島 學
- 敷地面積 17,965.18㎡
- 建物延面積 30,091.96㎡
- 病院種別 総合病院（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
- 診療科目 内科、神経内科、消化器科、循環器科・心臓血管外科、小児科
外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科
耳鼻いんこう科、放射線科、神経科精神科、麻酔科
リハビリテーション科、歯科口腔外科 計18科
- 特殊診療部門 救急医療、人工透析、生活習慣病健診、人間ドック
- 許可病床数 一般病床 330床・感染症病床 2床 計332床
- 保険診療 看護基準（10：1）
基準寝具／有
- 施設基準 （基本診療料）
歯科外来診療環境体制加算
一般病棟入院基本料（10対1）（一般病棟看護必要度評価加算有）
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
超急性期脳卒中加入算、妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算、医師事務作業補助体制加算（75対1）
急性期看護補助体制加算1、療養環境加算
重症者等療養環境特別加算、栄養管理実施加算
医療安全対策加算1、褥瘡患者管理加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算、ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算、急性期病棟等退院調整加算1
救急搬送患者地域連携紹介加算、総合評価加算
ハイケアユニット入院医療管理料、小児入院医療管理料4
亜急性期入院医療管理料1

（特掲診療料）
高度難聴指導管理料、糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者カウンセリング料
ニコチン依存症管理料、開放型病院共同指導料（I）
ハイリスク妊産婦共同管理料（I）

肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料（医薬品安全性情報等管理体制加算有）
 医療機器安全管理料 1、HPV 核酸同定検査
 検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅱ）、埋込型心電図検査、神経学的検査
 コンタクトレンズ検査料 1、小児食物アレルギー負荷検査
 内服・点滴誘発試験、画像診断管理加算 1、画像診断管理加算 2
 CT 撮影及びMRI 撮影、冠動脈CT 撮影加算
 心臓MRI 撮影加算、抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算 2、無菌製剤処理料
 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）
 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
 運動器リハビリテーション料（Ⅱ）
 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
 透析液水質確保加算
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
 体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章
 第 9 部の通則 4 を含む。）に掲げる手術、麻酔管理料（Ⅰ）
 輸血管管理料Ⅱ、クラウン・ブリッジ維持管理料

（入院時食事療養及び入院時生活療養の食事の提供たる療養の基準）
 入院時食事療養（Ⅰ）

（保険外併用療養費）
 特別の療養環境の提供、金属床による総義歯の提供
 病院（200 床以上）の初診

○ 診療指定 保険医療機関、労災保険指定医療機関
 指定自立支援医療機関（更正医療・育成医療・精神通院医療）
 身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
 生活保護法指定医療機関
 結核指定医療機関、指定養育医療機関
 原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
 第二種感染症指定医療機関、公害医療機関
 母体保護法指定医の配置されている医療機関
 災害拠点病院、エイズ治療拠点病院
 特定疾患治療研究事業委託医療機関
 指定療育機関、小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
 地域周産期母子医療センター 等

○ 研修等施設指定 日本内科学会教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会指導施設
 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本呼吸器学会認定施設
 日本消化器外科学会専門医修練施設、日本整形外科学会研修施設
 日本胸部外科学会関連施設、マンモグラフィ検診施設
 日本脳神経外科学会専門医訓練施設（C 項）
 日本泌尿器科学会専門医教育施設
 日本外科学会外科専門医制度修練施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
 日本麻酔科学会麻酔指導病院、日本臨床細胞学会施設
 日本皮膚科学会認定専門医一般研修施設
 日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設
 日本医療機能評価機構認定病院、基幹型臨床研修病院
 日本透析医学会教育関連施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設

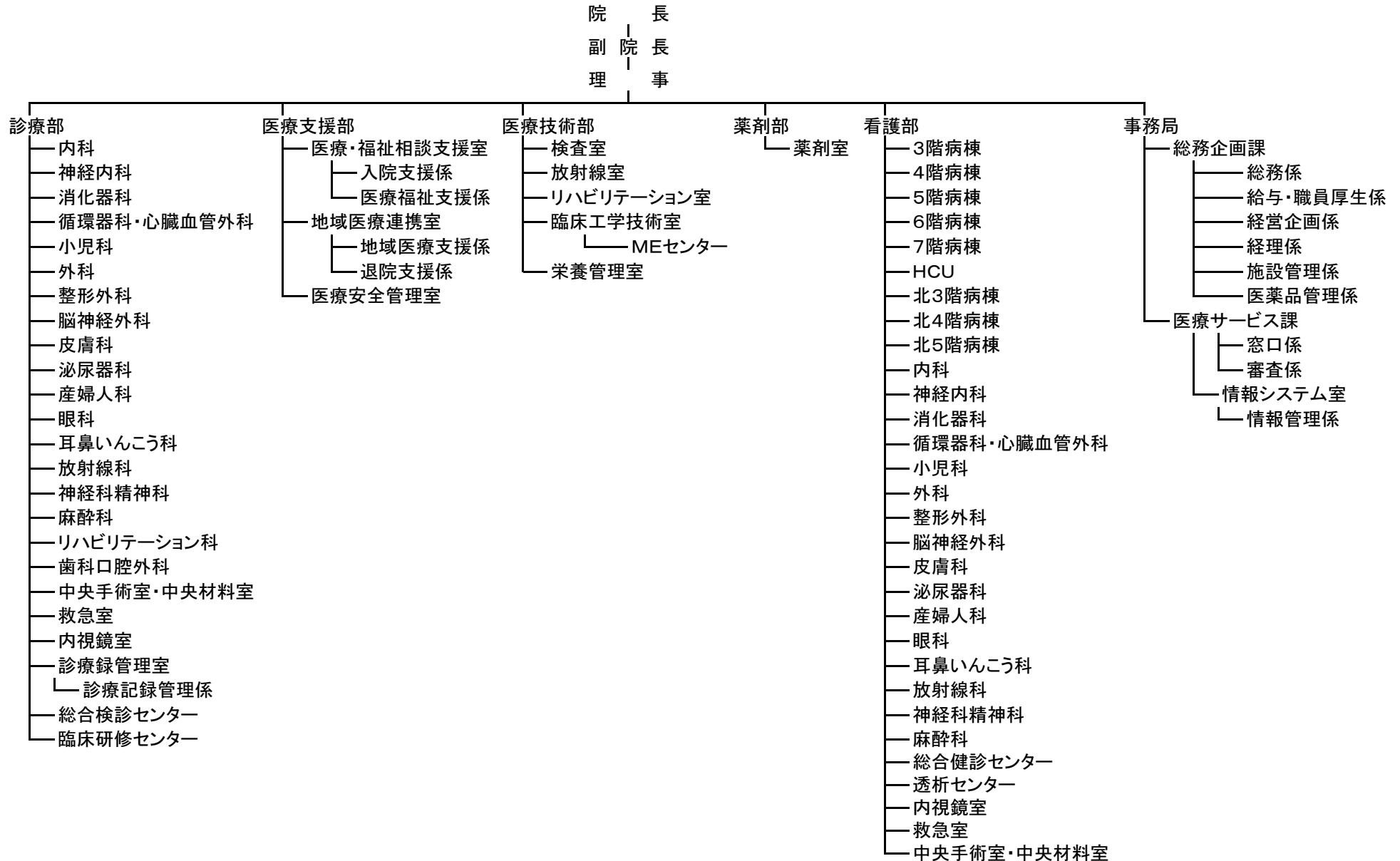
3 施設の概要

敷地面積	17,965.18㎡
建物延面積	30,091.96㎡
本館診療棟	12,067.92㎡
中央診療棟	3,223.29㎡
東診療棟	6,486.02㎡
北診療棟	8,314.73㎡
計	30,091.96㎡

4 設備の概要

受変電	設備容量：6,500KVA 契約電力：1,150KW 受電電圧：6,600V（2系統受電）
非常用電源設備	発電機容量：625KVA×2・200KVA×1
無停電電源装置	50KVA×4
太陽光発電設備	太陽電池アレイ×90 最大出力10KW
弱電設備	構内電話・コードレス電話設備 インターホン設備 ナースコール設備 電気時計設備 TV共聴設備
消防設備	自動火災報知設備 排煙設備 誘導灯 スプリンクラー設備 非常放送設備 非常通報設備 屋内消火栓設備
熱源設備	炉筒煙管蒸気ボイラー：1.5t/h 2基 貫流蒸気ボイラー：0.75t/h 2基 スチームアキュムレーター：30㎡ 1基
空調設備	吸収式冷温水機 5基（330RT×2・240RT×1・50RT×2） 水冷チラーユニット：1基 エアーハンドリング空調機 ガスエンジンヒートポンプマルチエアコン 電気式ヒートポンプマルチエアコン ファンコイルユニット
給水設備	受水槽：SUSパネル55t×2 SUSパネル25t×2 高架水槽：SUSパネル16t×2 SUSパネル7t×1 雑水高架水槽：SUSパネル13t×2 SUSパネル7t×1
排水設備	一般排水系統 R1排水系統 特殊排水系統
給湯設備	貯湯槽：SUS4.5t×2 SUS3.0t×2
浄化槽設備	R1処理槽
医療ガス設備	液体酸素設備 圧縮空気供給設備 亜酸化窒素供給設備 窒素供給設備 吸引設備
昇降機設備	寝台用エレベーター：10基 一般エレベーター：2基 ダムウェーター：2基
搬送設備	気送管設備：85φ14ST1系統・15φ4ST1系統

5 組織図(平成22年7月1日現在)



6 職員の現況

年度末現在

	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	合計	臨時嘱託再掲	合計	臨時嘱託再掲	合計	臨時嘱託再掲
医 師	42	4	47	8	48	8
薬 剤 師	10		10		9	
診療放射線技師	12	1	13		13	
臨床検査技師	16	4	14	3	15	2
臨床工学技士	5		4		5	
認定心理士	1	1	1	1		
理学療法士	4		5		6	
作業療法士	2		2		3	
マッサージ師	2		2		2	
言語聴覚士	2		1		2	
歯科衛生士	4	3	5	3	5	3
栄養士	4	1	5	1	5	1
調理員	19	4	18	4	19	4
保健師	2		2		2	
助産師	11		10		12	
看護師	196		204	2	195	4
准看護師	36	5	35	6	30	7
事務職員	26	6	31	10	26	6
電気技師	2		1		1	
自動車運転手	1		1			
電話交換手	2	1				
その他職員	9	7	9	6	14	12
合 計	408	37	420	44	412	47

7 入院部屋数(平成22年7月1日現在)

	本館3階		本館4階		本館 5階	本館・6階		本館7階		北2階	北3階			北4階	北5階	合計
		ドック		亜急性			亜急性		無菌室	HCU		小児入院	感染症病床			
特 室	(1)		(1)			(1)					(1)			(1)		(5)
	1		1			1					1			1		5
1人部屋	(6)	(6)	(5)		(9)	(5)		(4)	(1)		(2)	(6)	(2)	(8)	(6)	(60)
	6	6	5		9	5		4	1		2	6	2	8	6	60
重 症 1人部屋										(4)	(2)					(6)
										4	2					6
2人部屋	(2)				(4)	(4)		(4)		(2)						(16)
	1				2	2		2		1						8
重 症 2人部屋	(2)		(2)		(2)	(2)		(2)						(2)		(12)
	1		1		1	1		1						1		6
3人部屋																(0)
																0
4人部屋	(32)		(24)	(8)	(20)	(20)	(4)	(24)			(32)	(4)		(36)	(24)	(228)
	8		6	2	5	5	1	6			8	1		9	6	57
5人部屋															(5)	(5)
															1	1
合計	(43)	(6)	(32)	(8)	(35)	(32)	(4)	(34)	(1)	(6)	(37)	(10)	(2)	(47)	(35)	(332)
	17	6	13	2	17	14	1	13	1	5	13	7	2	19	13	143

上段・・・病床数()

下段・・・病室数

8 経営の概要

年度	収益的収支(単位:千円)			資本的収支(単位:千円)			一般会計繰入金(単位:千円)			医業収支 比率 医業収入 医業費用	職員給与 比率 職員給与 医業収入	年度末 職員数 (臨時嘱 託再掲)	病 床 利用率	病床数
	収入	支出	純損益	収入	支出	差引	収益勘定	資本勘定	合計					
16	5,889,693	5,888,010	1,683	3,530,410	4,146,531	△ 616,121	587,048	114,915	701,963	89.4	64.2	(39) 425	82.9	350
17	5,771,610	6,043,377	△ 271,767	1,994,204	2,561,175	△ 566,971	881,441	118,204	999,645	78.8	70.8	(40) 429	69.6	350
18	5,510,073	6,236,879	△ 726,806	1,441,334	1,502,963	△ 61,629	509,443	188,434	697,877	78.1	71.7	(36) 407	79.7	296
19	5,929,677	6,246,771	△ 317,094	420,949	420,949	0	706,177	291,949	998,126	82.4	66.6	(37) 408	78.5	332
20	6,538,035	6,838,546	△ 300,511	290,460	327,360	△ 36,900	745,013	290,460	1,035,473	83.6	65.0	(44) 420	83.6	332
21	6,620,285	6,825,777	△ 205,492	359,693	359,693	0	671,568	355,388	1,026,956	86.0	60.6	(47) 412	82.5	332

9 経営分析

分析項目		算出	単位	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
1日当り患者数	入院	入院患者数 入院診療日数	人	365日 290	365日 243	365日 236	366日 261	365日 278	365日 274
	外来	外来患者数 外来診療日数	人	243日 869	244日 744	245日 744	245日 754	243日 747	242日 713
	合計		人	1,159	987	980	1,015	1,025	987
医師1人1日当り患者数	入院	1日当り入院患者数 医師数	人	6.59	6.23	5.76	6.21	5.91	5.71
	外来	1日当り外来患者数 医師数	人	19.75	19.08	18.15	17.95	15.89	14.85
	合計		人	26.34	25.31	23.91	24.16	21.80	20.56
医業収支 対前年度 率比	医業収益の 対前年度比	当年度医業収益 前年度医業収益	%	94.31	89.39	98.92	108.23	111.67	102.49
	医業費用の 対前年度比	当年度医業費用 前年度医業費用	%	97.04	101.43	99.81	102.59	110.09	99.60
	差引増減		%	△ 2.73	△ 12.04	△ 0.89	5.64	1.58	2.89
患者1人 1日当り 診療収入	入院	入院収益 入院患者数	円	28,746	29,095	30,848	30,893	33,387	34,406
	外来	外来収益 外来患者数	円	8,040	8,863	8,136	8,396	9,084	9,920

分析項目		算出	単位	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
医業収益に対する医業費用の割合	給与費	<u>給与費</u> 医業収益	%	64.23	70.82	71.74	66.60	64.98	60.61	
	材料費	薬品費	<u>薬品費</u> 医業収益	%	14.83	18.31	15.68	15.68	15.27	15.98
		診療材料費	<u>診療材料費</u> 医業収益	%	8.76	9.44	8.33	9.62	11.50	11.95
		給食材料費	<u>給食材料費</u> 医業収益	%	1.75	1.65	1.56	1.57	1.46	1.37
		医療消耗備品費	<u>医療消耗備品費</u> 医業収益	%	0.08	0.40	0.25	0.06	0.05	0.01
		小計		%	25.41	29.79	25.81	26.93	28.29	29.31
	経費	<u>経費</u> 医業収益	%	16.16	20.11	21.71	20.31	20.09	20.72	
	減価償却費	<u>減価償却費</u> 医業収益	%	5.66	5.49	8.01	7.10	5.68	4.97	
	資産減耗費	<u>資産減耗費</u> 医業収益	%	0.05	0.27	0.37	0.00	0.03	0.03	
	研究研修費	<u>研究研修費</u> 医業収益	%	0.31	0.40	0.39	0.41	0.57	0.61	
	合計	<u>医業費用</u> 医業収益	%	111.82	126.88	128.02	121.35	119.63	116.25	

10 委員会等

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
部長会	1 病院運営の基本方針に関すること 2 重要な施策に関すること 3 企画推進に関すること	全 職 種	院 長	総務企画課	月 1 回	
管理運営・診療委員会	1 病院管理運営上の基本方針策定及び審議に関すること 2 診療業務の検討及び連絡に関すること	全 職 種	院 長	総務企画課	月 1 回	
医療安全対策委員会	医療事故の防止及び対策に関すること	医師、臨床検査技師 放射線技師、薬剤師 看護師、事務職員	副院長	医療安全管理室	月 1 回	医療法 施行規則
リスクマネジメント部会	1 インシデント事例の原因分析及び予防策の立案に関すること 2 医療安全に関する広報・研修・教育等に関すること	全 職 種	副院長	医療安全管理室	月 1 回	
救急蘇生法普及部会	心肺蘇生法の普及とその意識の向上に関すること	医師、臨床検査技師 放射線技師、看護師 事務職員	医 長	総務企画課	随 時	
病棟管理委員会	病棟の適正な入院環境の運営に関すること	医師、看護師 事務職員	副院長	医療サービス課	月 1 回	
院内感染対策委員会	1 感染症の院内感染予防対策に関すること 2 MRSA による院内感染予防対策に関すること	全 職 種	科部長	総務企画課	月 1 回	医療法 施行規則
患者サービス向上検討委員会	外来、入院患者に対する接遇等のサービスの向上に関すること	全 職 種	副院長	地域医療連携室	月 1 回	
褥瘡対策委員会	1 褥瘡と合併する感染予防の実施、監視及び指導に関すること 2 感染褥瘡源の調査に関すること	全 職 種	科部長	総務企画課	月 1 回	
電子カルテ委員会	1 医療情報トータルシステムの整備推進に関すること 2 入院患者のカルテ管理に関すること 3 病歴管理に関すること	全 職 種	副院長	医療サービス課	月 1 回	診療録管理 体制加算
DPC準備委員会	DPCに関すること	医師、薬剤師、看護師 事務職員	副院長	医療サービス課	随 時	
がん診療連携拠点病院推進委員会	1 拠点病院の指定に必要な企画立案に関すること 2 その他拠点病院の指定に関し必要なこと	医師、薬剤師、看護師 事務職員	科部長	総務企画課 医療サービス課	随 時	

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
クリティカルパス委員会	1 診療の質の適正化に伴う標準的な治療計画の作成に関すること 2 治療計画の説明により、患者の満足度の向上に関すること 3 その他適正な医療プログラム作成に関すること	医師、看護師、保健師 事務職員	理事	総務企画課	月 1 回	
薬事委員会	1 新規採用薬品に関すること 2 採用薬品の統合整理に関すること 3 その他薬事に関すること	医師、薬剤師、看護師 事務職員	副院長	総務企画課	月 1 回	
診療材料委員会	1 新規採用診療材料に関すること 2 診療材料の統合整理に関すること 3 その他診療材料に関すること	医師、臨床検査技師 放射線技師、看護師 事務職員	科部長	総務企画課	月 1 回	
倫理委員会	医療職員の高い資質の高揚及び医の倫理に関すること	医師、看護師、事務職員	院長	総務企画課	随 時	
栄養管理委員会	給食に係るサービス改善等に関すること	医師、管理栄養士、看護師、事務職員	理事	栄養管理室	随 時	
栄養サポート部会	栄養サポートに関すること	全 職 種	科部長	栄養管理室	随 時	
緩和ケア委員会	緩和ケアに関すること	全 職 種	診療部長	地域医療連携室	随 時	
TQM委員会	1 病院職員の資質向上に関すること 2 職種間の連携交流に関すること	全 職 種	医 長	総務企画課	随 時	
治験審査委員会	医薬品の臨床試験の実施に関すること	医師、薬剤師、事務職員	副院長	薬 剤 室	随 時	薬 事 法 施 行 規 則

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
地域医療連携室 運営委員会	1 病診連携業務体制の整備に関する事 2 開放型病床設置における業務体制整備に 関すること 3 地域医療機関からの要望の対応に関する こと	全 職 種	副 院 長	地域医療連携室	随 時	
HCU運営委員会	HCUの円滑・適正な管理運営に関する事	全 職 種	科 部 長	総務企画課	随 時	
血液製剤 管理委員会	輸血用血液製剤の取扱いに関する事	全 職 種	理 事	総務企画課	随 時	輸血管理料
臨床研修 管理委員会	臨床研修プログラムに関する事	医師、看護師、事務 職員	院 長	総務企画課	随 時	厚生労働省令
図書委員会	図書の整備と有効活用に関する事	医師、臨床検査技師 看護師、事務職員	診 療 部 長	総務企画課	随 時	
防火対策委員会	1 消防計画に関する事 2 その他防災に関する事	全 職 種	院 長	総務企画課	随 時	市立敦賀病院 防火管理規程
ボランティア 委員会	ボランティア業務に関する事	医師、放射線技師 薬剤師、看護師 事務職員	課 長	地域医療連携室	随 時	
医療ガス 安全委員会	1 医療ガス設備に係る保守点検に関する事 2 医療ガスに係る知識の普及と啓発に関する 事	医師、看護師、薬剤 師、事務職員	科 部 長	総務企画課	年 1 回	厚生労働省 通 知
衛生委員会	1 院内衛生上の改善に関する事 2 職員の健康に関する事（健康診断、保 持増進の指導等）	医師、臨床検査技師 放射線技師、看護師 事務職員	事 務 局 長	総務企画課	月 1 回	労働安全 衛 生 法
透析センター 運営委員会	透析業務及び透析センターの管理運営に関 すること	医師、臨床工学技士 看護師、事務職員	医 長	総務企画課	随 時	
MEセンター 運営委員会	MEセンター業務及びME機器の効果的な 管理運営に関する事	医師、臨床工学技士 看護師、事務職員	理 事	総務企画課	随 時	

委員会等	所掌する事項	構成職種	委員長等	事務局	開催頻度	備考
病院年報編集委員会	病院年報の編集に関する事	医師、看護師、事務職員	院長	総務企画課	随時	
医療機器選定委員会	医療機器の選定に関する事	医師、看護師、事務職員	院長	総務企画課	随時	
化学療法委員会	化学療法に関する事	医師、放射線技師、薬剤師、看護師、事務職員	診療部長	総務企画課	随時	
検体検査適正化委員会	検体検査の適正化に関する事	医師、臨床検査技師、看護師、事務職員	科部長	総務企画課	随時	検体検査管理加算
放射線安全委員会	放射線障害の防止に関する事	医師、放射線技師、事務局職員	理事	総務企画課	随時	放射線障害予防規程
救急室・外来運営委員会	救急室、外来の運営に関する事	全職種	診療部長	総務企画課	随時	
災害医療部会	災害医療に関する事	全職種	科部長	放射線室	月1回	
教育研修委員会	教育研修に関する事	全職種	副院長	総務企画課	随時	
医局会	1 病院運営上の診療に関する事 2 医療の知識・技術の向上に関する事 3 医師相互の連絡調整に関する事	医師、薬剤師	医局長	診療部	月1回	

(看護部内委員会等)

委員会等	所掌する事項	開催 頻度
師 長 会	病院運営下部組織会議としての役割を果たし、看護の質を高め、円滑化を図るための諸問題に関する事	月 2 回
主 任 会	看護師長の補佐として、看護職員の指導・教育・業務改善・医療事故防止等の諸問題に関する事	月 1 回
セーフティーマネジャー 委 員 会	インシデントレポートの把握、再発防止啓蒙・教育に関する事	月 1 回
教 育 委 員 会	教育（全体・卒後・看護研究）・接遇・固定ナーシングチームに関する事	月 2 回
業 務 委 員 会	看護業務の改善、基準・手順の見直し、患者の安全、院内感染防止に関する事	月 2 回
記 録 監 査 委 員 会	1 看護記録に関する事 2 看護支援システムに関する事	月 2 回
看 護 展 実 行 委 員 会	看護展に関する事	随 時

Ⅱ 決算概要

1 収益的收入及び支出

収入

単位：千円

	19年度		20年度		21年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業収益	5,929,677	107.6	6,538,035	110.3	6,620,285	101.3
医業収益	4,769,783	108.2	5,326,644	111.7	5,459,514	102.5
入院収益	2,947,291	111.0	3,384,202	114.8	3,439,546	101.6
外来収益	1,551,140	104.6	1,648,737	106.3	1,711,723	103.8
その他医業収益	271,352	100.8	293,705	108.2	308,245	105.0
医業外収益	1,156,389	105.2	1,207,894	104.5	1,157,339	95.8
受取利息	79	164.6	60	75.9	13	21.7
他会計負担金	354,907	85.4	499,705	140.8	489,391	97.9
補助金	393,456	108.9	382,782	97.3	405,826	106.0
財産収益	7,216	104.0	7,690	106.6	7,387	96.1
基金繰入金	0	—	14,802	皆増	18,060	122.0
患者外給食収益	745	141.4	859	115.3	423	49.2
その他医業外収益	52,221	209.3	60,185	115.3	57,494	95.5
他会計補助金	347,765	385.1	241,811	69.5	178,745	73.9
寄附金	0	皆減	0	—	0	—
附帯事業収益	3,505	95.1	3,497	99.8	3,432	98.1
他会計負担金	3,505	95.1	3,497	99.8	3,432	98.1

支出

単位：千円

	19年度		20年度		21年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業費用	6,246,771	100.2	6,838,546	109.5	6,825,777	99.8
医業費用	5,788,223	102.6	6,372,443	110.1	6,346,723	99.6
給与費	3,176,762	100.5	3,461,061	108.9	3,308,937	95.6
給料	1,314,880	97.8	1,311,222	99.7	1,223,644	93.3
手当等	1,108,888	100.0	1,174,561	105.9	1,107,123	94.3
賃金	273,898	115.6	330,435	120.6	342,617	103.7
法定福利費	366,177	97.7	371,155	101.4	408,220	110.0
退職給与費	112,919	116.3	273,688	242.4	227,333	83.1
材料費	1,284,561	112.9	1,506,759	117.3	1,600,641	106.2
薬品費	747,991	108.3	813,524	108.8	872,441	107.2
診療材料費	458,863	125.0	612,775	133.5	652,582	106.5
給食材料費	74,977	109.3	78,032	104.1	74,875	96.0
医療消耗備品費	2,730	25.0	2,428	88.9	743	30.6
経費	968,795	101.3	1,070,040	110.5	1,131,221	105.7
厚生福利費	2,825	94.7	2,775	98.2	2,737	98.6
報償費	426	181.3	15	3.5	259	1726.7
旅費	9,971	121.2	9,106	91.3	8,081	88.7
職員被服費	1,223	100.9	940	76.9	988	105.1
消耗品費	29,777	94.9	37,355	125.4	33,618	90.0
消耗備品費	373	1.8	3,388	908.3	557	16.4
光熱水費	80,234	101.2	86,988	108.4	83,722	96.2
燃料費	51,743	104.6	60,030	116.0	43,612	72.7
食糧費	310	55.6	159	51.3	9	5.7
印刷製本費	5,066	89.8	4,805	94.8	2,522	52.5

単位:千円

	19年度		20年度		21年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
修繕費	44,095	154.3	82,505	187.1	65,170	79.0
保険料	10,862	93.9	13,071	120.3	21,231	162.4
賃借料	270,317	108.8	278,905	103.2	344,607	123.6
通信運搬費	7,617	101.4	7,966	104.6	8,044	101.0
委託料	446,470	98.4	473,624	106.1	509,662	107.6
交際費	0	皆減	29	皆増	48	165.5
公課費	59	70.2	84	142.4	59	70.2
諸会費	1,218	94.9	1,247	102.4	1,229	98.6
雑費	6,209	104.9	7,048	113.5	5,066	71.9
減価償却費	338,619	95.9	302,504	89.3	271,150	89.6
建物減価償却費	207,357	105.5	207,142	99.9	204,784	98.9
構築物減価償却費	2,854	96.5	2,724	95.4	2,724	100.0
器械備品減価償却費	127,599	83.5	91,988	72.1	63,498	69.0
車両減価償却費	809	100.0	650	80.3	144	22.2
無形固定資産減価償却費	0	—	0	—	0	—
資産減耗費	102	0.6	1,539	1508.8	1,444	93.8
固定資産除却費	102	0.6	1,539	1508.8	1,444	93.8
研究研修費	19,384	114.2	30,540	157.6	33,330	109.1
謝金	3,943	94.0	3,865	98.0	2,369	61.3
図書費	5,162	117.0	4,511	87.4	4,549	100.8
旅費	4,956	87.4	7,497	151.3	10,050	134.1
消耗品費	15	29.4	5,320	35466.7	7,979	150.0
食糧費	1,305	9,321.4	3,783	289.9	2,717	71.8
印刷製本費	650	328.3	118	18.2	118	100.0
委託料	473	皆増	0	皆減	0	—
負担金	2,670	115.7	4,594	172.1	5,378	117.1
雑費	210	168.0	852	405.7	170	20.0
医業外費用	446,796	76.4	454,699	101.8	453,791	99.8
支払利息	221,350	99.7	205,984	93.1	195,283	94.8
企業債利息	213,853	96.8	205,349	96.0	195,020	95.0
一時借入金利息	7,497	685.3	635	8.5	263	41.4
繰延勘定償却	100,550	160.8	123,792	123.1	119,248	96.3
患者外給食材料費	394	151.0	494	125.4	311	63.0
基金積立金	465	0.2	285	61.3	223	78.2
雑支出	108,037	108.4	124,144	114.9	131,526	105.9
賠償金	16,000	皆増	0	皆減	7,200	皆増
特別損失	8,417	122.7	8,219	97.6	22,185	269.9
過年度損益修正損	8,417	122.7	8,219	97.6	22,185	269.9
附帯事業費用	3,335	95.1	3,185	95.5	3,078	96.6
看護学校実習病院経費	3,335	95.1	3,185	95.5	3,078	96.6
旅費	483	46.2	305	63.1	353	115.7
消耗品費	1,547	93.3	1,557	100.6	1,588	102.0
印刷製本費	746	373.0	559	74.9	588	105.2
賃借料	120	85.7	0	皆減	0	—
図書費	367	203.9	619	168.7	446	72.1
負担金	72	25.4	145	201.4	103	71.0

2 資本的收入及び支出

単位:千円

	19年度		20年度		21年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
資本的收入	420,949	29.2	290,460	69.0	359,693	123.8
一般会計繰入金	291,949	154.9	290,460	99.5	355,388	122.4
企業債	129,000	84.4	0	皆減	0	—
寄附金	0	皆減	0	—	0	—
基金繰入金	0	皆減	0	—	0	—
国・県補助金	0	—	0	—	4,305	皆増
資本の支出	420,949	28.0	327,360	77.8	359,693	109.9
企業債償還金	291,949	103.3	300,312	102.9	338,179	112.6
退職給与費	129,000	84.3	0	皆減	0	—
病院増改築費	0	皆減	27,048	皆増	0	皆減
建物整備費	0	—	0	—	17,209	皆増
資産購入費	0	—	0	—	4,305	皆増
駐車場整備事業費	0	—	0	—	0	—

3 貸借対照表

単位:千円

	19年度		20年度		21年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	14,971,253	97.8	14,692,970	98.1	14,440,866	98.3
有形固定資産	14,971,253	97.8	14,692,970	98.1	14,440,866	98.3
土地	665,676	100.0	665,676	100.0	665,676	100.0
建物	13,064,174	100.0	13,089,934	100.2	13,106,324	100.1
建物減価償却累計額	△ 1,461,565	116.5	△ 1,668,706	114.2	△ 1,873,490	112.3
構築物	141,621	100.0	141,621	100.0	141,621	100.0
構築物減価償却累計額	△ 50,730	106.0	△ 53,455	105.4	△ 56,179	105.1
器械備品	4,696,194	100.0	4,665,418	99.3	4,640,632	99.5
器械備品減価償却累計額	△ 2,085,695	106.4	△ 2,148,447	103.0	△ 2,184,502	101.7
車両	14,548	100.0	14,548	100.0	14,548	100.0
車両減価償却累計額	△ 12,970	106.7	△ 13,619	105.0	△ 13,764	101.1
建設仮勘定	0	—	0	—	0	—
流動資産	1,870,472	101.0	1,892,877	101.2	2,001,639	105.7
現金預金	410,535	76.2	309,639	75.4	358,842	115.9
未収金	1,440,845	111.9	1,564,401	108.6	1,619,109	103.5
貯蔵品	19,092	75.6	18,837	98.7	23,688	125.8
繰延勘定	418,970	107.3	296,407	70.7	178,136	60.1
資産合計	17,260,695	98.3	16,882,254	97.8	16,620,641	98.5
固定負債	1,182,634	334.9	1,126,682	95.3	1,066,959	94.7
企業債	281,900	184.4	240,465	85.3	198,579	82.6
他会計借入金	700,000	皆増	700,000	100.0	700,000	100.0
引当金	200,734	100.2	186,217	92.8	168,380	90.4
流動負債	1,007,396	55.6	954,130	94.7	894,741	93.8
一時借入金	500,000	50.0	350,000	70.0	300,000	85.7
未払金	487,394	61.6	582,908	119.6	573,794	98.4
その他流動負債	20,002	100.6	21,222	106.1	20,947	98.7
資本金	9,554,669	97.0	9,332,692	97.7	9,036,400	96.8
自己資本金	2,396,160	100.0	2,433,060	101.5	2,433,060	100.0
借入資本金	7,158,509	96.1	6,899,632	96.4	6,603,340	95.7
剰余金	6,805,222	104.5	7,058,486	103.7	7,417,769	105.1
資本剰余金	6,768,322	104.5	7,058,486	104.3	7,417,769	105.1
減債積立金	28,800	100.0	0	0.0	0	—
建設改良積立金	8,100	100.0	0	0.0	0	—
欠損金	△ 1,289,226	132.6	△ 1,589,736	123.3	△ 1,795,228	112.9
当年度未処理欠損金	△ 1,289,226	132.6	△ 1,589,736	123.3	△ 1,795,228	112.9
負債・資本合計	17,260,695	98.3	16,882,254	97.8	16,620,641	98.5

4 診療行為別診療収入の状況

単位：千円

		平成19年度			平成20年度			平成21年度		
		金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
入院	基本診療料	1,602,284	54.4	109.5	1,742,103	51.5	108.7	1,746,901	50.8	100.3
	検査料	184,350	6.3	117.7	207,455	6.1	112.5	210,280	6.1	101.4
	画像診断	128,920	4.4	112.9	143,753	4.2	111.5	144,378	4.2	100.4
	投薬	87,282	3.0	126.4	86,981	2.6	99.7	90,271	2.6	103.8
	注射	246,412	8.4	119.0	277,218	8.2	112.5	278,775	8.1	100.6
	理学療法	65,416	2.2	98.6	90,202	2.7	137.9	91,179	2.7	101.1
	処置	132,923	4.5	125.2	160,317	4.7	120.6	150,725	4.4	94.0
	手術	441,462	15.0	107.3	591,112	17.5	133.9	636,739	18.5	107.7
	麻酔	58,242	2.0	95.4	85,062	2.5	146.0	90,297	2.6	106.2
	合計	2,947,291	100.0	111.0	3,384,202	100.0	114.8	3,439,545	100.0	101.6
	患者1人当り収入(円)	30,893	—	100.1	33,387	—	108.1	34,406	—	103.1
外来	基本診療料	268,841	17.3	99.1	288,083	17.5	107.2	278,066	16.2	96.5
	検査料	370,004	23.9	113.9	408,802	24.8	110.5	434,089	25.4	106.2
	画像診断	237,893	15.3	109.1	269,605	16.4	113.3	296,762	17.3	110.1
	投薬	20,085	1.3	67.7	24,426	1.5	121.6	26,390	1.5	108.0
	注射	201,782	13.0	96.5	208,455	12.6	103.3	244,234	14.3	117.2
	理学療法	6,753	0.4	91.1	9,329	0.6	138.1	16,192	0.9	173.6
	処置	312,649	20.2	107.6	311,163	18.9	99.5	320,364	18.7	103.0
	手術	32,063	2.1	90.1	32,973	2.0	102.8	29,429	1.7	89.3
	麻酔	10,543	0.7	118.5	8,141	0.5	77.2	7,062	0.4	86.7
	精神療法	27,347	1.8	97.1	26,563	1.6	97.1	3,900	0.2	14.7
	処方せん料	63,181	4.1	106.5	61,197	3.7	96.9	55,235	3.2	90.3
	合計	1,551,141	100.0	104.6	1,648,737	100.0	106.3	1,711,723	100.0	103.8
	患者1人当り収入(円)	8,396	—	103.2	9,084	—	108.2	9,920	—	109.2

5 診療科別診療収入の状況

(1)入院・外来合計

単位:千円

区分	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科(*1)	1,123,730	25.0	120.0	1,372,728	27.3	122.2	1,376,512	26.7	100.3
神経内科(*2)	27,733	0.6	94.7	25,842	0.5	93.2	11,680	0.2	45.2
消化器科(*3)	238,157	5.3	117.5	275,322	5.5	115.6	338,388	6.6	122.9
循環器科(*3)	487,888	10.8	104.6	486,082	9.7	99.6	563,822	10.9	116.0
小児科	142,213	3.2	109.5	180,022	3.6	126.6	201,798	3.9	112.1
外科	698,160	15.5	109.5	703,066	14.0	100.7	648,389	12.6	92.2
整形外科	512,751	11.4	99.2	708,968	14.1	138.3	772,308	15.0	108.9
脳神経外科	327,246	7.3	91.3	368,522	7.3	112.6	355,937	6.9	96.6
皮膚科	71,873	1.6	102.5	53,976	1.1	75.1	81,299	1.6	150.6
泌尿器科	312,934	7.0	99.8	296,020	5.9	94.6	321,302	6.2	108.5
産婦人科	283,806	6.3	117.7	306,580	6.1	108.0	284,498	5.5	92.8
眼科	56,192	1.2	75.1	74,746	1.5	133.0	67,414	1.3	90.2
耳鼻いんこう科	39,502	0.9	97.5	53,558	1.1	135.6	35,125	0.7	65.6
放射線科	13,267	0.3	99.4	15,414	0.3	116.2	14,402	0.3	93.4
神経科精神科	41,189	0.9	95.8	39,330	0.8	95.5	6,035	0.1	15.3
麻酔科	23,091	0.5	268.9	5,418	0.1	23.5	5,665	0.1	104.6
リハビリテーション科	8,307	0.2	93.4	11,210	0.2	134.9	16,738	0.3	149.3
歯科口腔外科	90,392	2.0	194.3	56,135	1.1	62.1	49,957	1.0	89.0
合計	4,498,431	100.0	108.7	5,032,939	100.0	111.9	5,151,269	100.0	102.4

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科(呼吸器内科、血液内科、糖尿病)を含む

(2)入院

単位:千円

区分	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科(*1)	580,677	19.7	135.9	794,053	23.5	136.7	755,907	22.0	95.2
神経内科(*2)	13,963	0.5	87.7	12,421	0.4	89.0	2,469	0.1	19.9
消化器科(*3)	168,629	5.7	129.6	191,769	5.7	113.7	236,349	6.9	123.2
循環器科(*3)	356,334	12.1	102.5	327,462	9.7	91.9	389,644	11.3	119.0
小児科	86,379	2.9	125.1	113,361	3.3	131.2	117,753	3.4	103.9
外科	561,444	19.0	110.7	561,482	16.6	100.0	501,388	14.6	89.3
整形外科	376,089	12.8	97.7	567,464	16.8	150.9	628,987	18.3	110.8
脳神経外科	263,119	8.9	89.3	308,060	9.1	117.1	300,471	8.7	97.5
皮膚科	37,923	1.3	109.9	21,108	0.6	55.7	39,757	1.2	188.4
泌尿器科	166,035	5.6	96.2	154,111	4.6	92.8	172,502	5.0	111.9
産婦人科	236,501	8.0	114.2	256,068	7.6	108.3	240,914	7.0	94.1
眼科	20,198	0.7	63.4	31,898	0.9	157.9	26,620	0.8	83.5
耳鼻いんこう科	19,358	0.7	91.1	31,495	0.9	162.7	15,205	0.4	48.3
放射線科									
神経科精神科									
麻酔科	15,522	0.5	584.4	1,731	0.1	11.2	1,313	0.0	75.9
リハビリテーション科									
歯科口腔外科	45,120	1.5	566.5	11,719	0.3	26.0	10,267	0.3	87.6
合計	2,947,291	100.0	111.0	3,384,202	100.0	114.8	3,439,546	100.0	101.6

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科(呼吸器内科、血液内科、糖尿病)を含む

(3)外来

単位:千円

区分	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科(*1)	543,053	35.0	106.8	578,675	35.1	106.6	620,605	36.3	107.2
神経内科(*2)	13,770	0.9	103.2	13,421	0.8	97.5	9,211	0.5	68.6
消化器科(*3)	69,528	4.5	95.7	83,553	5.1	120.2	102,039	6.0	122.1
循環器科(*3)	131,554	8.5	110.9	158,620	9.6	120.6	174,178	10.2	109.8
小児科	55,834	3.6	91.8	66,661	4.0	119.4	84,045	4.9	126.1
外科	136,716	8.8	104.8	141,584	8.6	103.6	147,001	8.6	103.8
整形外科	136,662	8.8	103.5	141,504	8.6	103.5	143,321	8.4	101.3
脳神経外科	64,127	4.1	100.6	60,462	3.7	94.3	55,466	3.2	91.7
皮膚科	33,950	2.2	95.4	32,868	2.0	96.8	41,542	2.4	126.4
泌尿器科	146,899	9.5	104.3	141,909	8.6	96.6	148,800	8.7	104.9
産婦人科	47,305	3.0	138.7	50,512	3.1	106.8	43,584	2.5	86.3
眼科	35,994	2.3	83.7	42,848	2.6	119.0	40,794	2.4	95.2
耳鼻いんこう科	20,144	1.3	104.5	22,063	1.3	109.5	19,920	1.2	90.3
放射線科	13,267	0.9	99.4	15,414	0.9	116.2	14,402	0.8	93.4
神経科精神科	41,189	2.7	95.8	39,330	2.4	95.5	6,035	0.4	15.3
麻酔科	7,569	0.5	127.6	3,687	0.2	48.7	4,352	0.3	118.0
リハビリテーション科	8,307	0.5	93.4	11,210	0.7	134.9	16,738	1.0	149.3
歯科口腔外科	45,272	2.9	117.4	44,416	2.7	98.1	39,690	2.3	89.4
合計	1,551,140	100.0	104.6	1,648,737	100.0	106.3	1,711,723	100.0	103.8

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科(呼吸器内科、血液内科、糖尿病)を含む

Ⅲ 各部署の活動状況

1 診療部

(1) 診療各科

1 平成21年度活動と評価

- ・ DPCの導入に向けて、診療内容の標準化に取り組んだことにより、2次的に診療報酬の減点率も改善された。
- ・ 院内がん登録は専任の職員に任せることにより、医師の負担増がなく遂行できるようになった。
- ・ 緩和ケアについては、認定看護師の介入が多くなり、より標準化に近づいた。

実施日	演題名	所属・役職名	参加者
7月9日	アンチエイジングを見据えた2型糖尿病の総合的治療戦略	金沢大学医学部 内分泌・代謝内科准教授	30名
7月24日	日常診療における腎臓病と高血圧	金沢大学医学部 血液情報統御学教授	30名
9月9日	NST勉強会	福井大学医学部外科准教授	15名
10月16日	感染対策について	福井大学医学部内科教授	70名
11月25日	3DCT冠動脈造影とCAG、PCIと利 用度、有用性、限界性	金沢循環器病院 院長	30名
	虚血性疾患の進歩する診断と治療	金沢大学医学部教授	

2 平成22年度目標

DPCの導入に向けて、クリティカルパスの積極的利用等により、診療内容の標準化を一層進める。

新設の管理料の基準を満たすようさらなる努力を行う。そのためにさらなる病院職員の専門的研修を進める。特に人員不足とのバランスを取りながら進めることが大事である。

2 医療支援部

(1) 医療・福祉相談支援室（平成22年度に新設）

1 平成22年度目標

入院支援室を8月を目処に開設し、予約患者の入院について支援する。
年間目標 972人（6人（1日）×162日）

(2) 地域医療連携室

1 平成21年度の活動

- ① 地域医療機関（開業医等）との連携を促進した。

- ・ 紹介患者の円滑な受入れ
- ・ 医師会との意見交換会の実施
- ・ 各種研修会の開催

実施日	演題名等	所属・役職名	参加者
6月19日	地域公開医療講座 「健康を支える口腔ケア」	市立敦賀病院歯科口腔外科 医長	57名
8月19日	地域医療連携カンファレンス 「泌尿器科疾患紹介患者の症例」	市立敦賀病院泌尿器科 泌尿器科部長	26名
10月6日	地域医療連携カンファレンス 「消化器外科疾患紹介患者の症例」	市立敦賀病院外科 消化器外科部長、医長、医師	11名
11月13日	地域公開医療講座 「当院のリハビリテーションの現状と地域との連携」	市立敦賀病院リハビリテーション室 主任理学療法士	42名

- ・ 連携取組みの周知

見やすく、分かりやすい広報紙「きらめき」、パンフレット「かかりつけ医ガイド」を作成した。

- ② 紹介及び逆紹介率の向上に取り組んだ。
- ③ 開放型病床の利用促進を図った。
- ④ 退院支援等の促進のため、相談業務の充実を図った。

2 平成21年度の評価

上記の活動を行い、下記の結果となった。

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減
② 関 係	紹介率	25.8%	28.7%	25.7%	△3%
	逆紹介率	17.9%	30.3%	32.1%	1.8%
③ 関 係	利用延人数	716人	871人	721人	△150人
	利用率	39.1%	47.7%	39.5%	△8.2%
④ 関 係	相談実人数	1,997人	2,601人	2,205人	△396人
	相談延件数	6,867件	5,895件	5,916件	21件

3 平成22年度目標

- ① 地域医療機関との連携強化
(紹介率 35%、逆紹介率40%、開放型病床利用率50%)
- ② 退院支援の強化
退院困難患者を入院時より抽出し、早期に支援を開始する。
(長期入院患者 月平均40人以内)

(3) 医療安全管理室

1 平成21年度活動

「全職員に医療安全活動の更なる推進」を目標に掲げ、下記の活動を行った。

① 講習会等の実施

実施日	演題名等	所属・役職名等	参加者
7月3日	医療事故防止のための「危険予知訓練」 集合教育	メディカルセーフティコーチ	167名
7月4日	医療事故防止のための「危険予知訓練」 グループワーク	メディカルセーフティコーチ	47名
9月17日	医薬品安全研修会 「知ることから始めよう。薬の安全」	市立敦賀病院薬剤室長補佐	152名
	医療安全に係わる取組みの発表	各部署職員	
11月16日	医療メディーエーション研修	山形大学准教授	19名
2月16日	最近の医療訴訟の動向と当院の教訓	成田・長谷川法律事務所弁護士	118名
3月11日	医療安全に係わる取組みの発表	各部署職員	138名
	医薬品安全研修会 「がん化学療法のセーフティマネジ メント～安心と質の保証を目指して～」	独立行政法人 国立病院機構福井病院薬剤師	

② 緊急時コードブルー発信状況

平成21年度はコードブルーの発信が6回あった。いずれも医師、看護師を中心に多職種が駆けつけた。

2 平成21年度評価

医療安全活動の更なる推進はできたが、職場が一丸となつての安全活動には努力を要する。

3 平成22年度目標

- ① 職場が一丸となつて医療安全活動を活性化する。
- ② 【face to face】による職場間の医療安全情報の共有を推進する。

3 医療技術部

(1) 検査室

1 平成21年度活動

- ① 敦賀・美浜・旧三方地区における輸血用血液製剤供給業務の実施
敦賀地区の血液供給業者の業務辞退に伴い、平成21年10月より検査室において上記業務を行った。(近隣医療機関からの要請は1ヶ月約30件)
- ② 耳鼻いんこう科における検査技師による聴力検査の実施
耳鼻いんこう科担当看護師が休みの日は、検査技師が実施。今後更なる業務支

援の実施に努めたい。

- ③ 認定資格の取得、学会発表を行い、専門性を高めた。
 - ・ 「超音波検査士」(循環器領域)合格 河野 裕樹
 - ・ 第41回日本臨床検査自動化学会大会(平成21年10月9日)
「新規開発のダイヤカラー・HDL、LDLの基礎的検討」
東 正浩
 - ・ 日本超音波医学会 第29回中部地方会(平成22年1月31日)
「経胸壁心エコー図検査が診断の契機となった先天性左側心膜欠損症の一例」
河野 裕樹
- ④ 院内配置の心電計の保守及び点検の実施
平成22年1月より、救急室及び病棟に配置した心電計14台を1ヶ月に1回検査技師が巡回し、保守点検を行った。

2 平成21年度評価

上記活動が実践されたことにより、当初の目的が達成されたが、次年度に向け、更なる検査の質および患者サービスの向上を目指し取り組んでいきたい。

3 平成22年度目標

- ① 看護業務支援及び患者サービスの向上
 - ・ 耳鼻いんこう科における聴力検査を看護師に代わり専門の検査技師が実施する。
 - ・ 病棟翌日採血用採血管を袋詰めした後、検査室より各病棟に配達する。
 - ・ 午後1時から、生理検査終了後の患者さんを技師が病棟まで送り届ける。
- ② 検査の質の向上
 - ・ 日本臨床衛生検査学会が今年度導入を目指す「検査室精度保証施設認証制度」の取得を目指す。
 - ・ 各種認定資格の取得を目指す。
 - ・ 積極的に学会発表に取り組む。
- ③ 検査試薬の見直しを行い、更なるコスト削減に努める。

(2) 放射線室

1 平成21年度活動及び評価

平成21年11月のフィルムレス化に向け資料の作成や他施設への視察、科内及び院内WGを立ち上げての各職員間の活発な意見交換や活動により、予定通り稼働開始することができ、また、電子カルテとの連動もスムーズで各科診療室への画像配信が可能となり、検査後のフィルム現像の待ち時間がなくなり、患者サービス向上の一助となった。

しかし、院内外とのデータでのやり取りが増え、それに伴うセキュリティーへの意識付けが今後の課題だと思う。

また、電子化に伴い、業務マニュアルの見直しを行っており、現在部門ごとに改定中である。

2 平成22年度目標

- ① 胃がん個別検診の実施に向けて胃透視の技師の育成を図る。
- ② 迅速な画像情報の配信・提供を行い、医師及び看護師と連携して、医療安全の推進に努める。

(3) リハビリテーション室

1 平成21年度活動

- ① 人員条件が整い6月に「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」の届出をした。リハビリテーションの実施件数が増加し、増収につながった。
- ② 嚥下機能評価法としてビデオ嚥下造影検査に加えてビデオ内視鏡検査を実施した。嚥下能力をよりの確に判定することができ、安全な摂食嚥下練習の実施につながった。
- ③ 年末年始や大型連休の期間中に、急性期患者を中心にリハビリを実施した。

2 平成21年度評価

上記目標を掲げ実践したところ、増収や患者サービスの向上につながった。今後、生活機能の向上に着目してリハビリを実施し、更なる患者サービスの向上に努めていきたい。

3 平成22年度目標

- ① 病棟・病室でのリハビリ時間を増やし看護スタッフとの連携を密にして、急性期より生活機能に着目したリハビリを展開することで、早期の機能回復を図り、更なる患者サービス向上を目指したい。
- ② 業務に支障のない限り、担当入院患者の「退院調整カンファレンス」に出席して地域との連携を図っていきたい。
- ③ 年末年始や大型連休の期間中の急性期患者を中心にリハビリを継続して行う。

(4) 臨床工学技術室

1 平成21年度活動

- ① 透析センターにおける業務を円滑に実施した。
- ② 急性血液浄化・PCPS等における対応を円滑に行った。
- ③ 輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、経腸栄養ポンプ、電動低圧吸引器の中央管理化を実施した。それに伴い、対象機器の一斉点検を実施した。
- ④ 除細動器及びAEDの日常点検を行い、管理を強化した。
- ⑤ 手術室業務として、術中回収式自己血輸血（オーソパット）を円滑に実施した。

- ⑥ 看護師を対象にサーボベンチレーターに係る初級取扱講習会を実施した。
- ⑦ その他院内にある様々な医療機器の修理やトラブル対応を行った。

2 平成21年度評価

上記活動を通じて、当該年度の目標はほぼ達成できたが、中央管理機器、とりわけ輸液ポンプの運用には、今後更なる検討が必要であると思われる。効率的な医療機器の運用に向け努力していきたい。

3 平成22年度目標

- ① 平成21年度の活動の継続と強化を図る。
- ② 新たに保育器の管理を行っていききたい。
- ③ 人工呼吸器動作時のラウンドを実施する。
- ④ 透析液水質確保加算に対応した透析液の管理を実施する。

(5) 栄養管理室

1 平成21年度活動と評価

平成22年4月からの給食業務全面委託に備え、業務の質の維持と患者サービスの向上に向けて準備してきた。

また、NST患者の栄養管理の充実と週3回の選択メニューは目標達成ができた。

2 平成22年度目標

- ① 全面委託に代わっても、業務の質と食品衛生自主管理プログラムに基づく衛生管理を継続して実施する。
- ② 入院患者（全員）への栄養スクリーニング・栄養アセスメント対応の継続実施
- ③ 患者サービスとして選択メニュー（週5回）、祝い膳及びソフト食の充実
- ④ NSTの取組みへの充実（専従NST栄養士取得に向けて）

4 薬剤部

(1) 薬剤室

1 平成21年度活動

- ① 医薬品情報管理業務
 - ・ 医薬品要覧の電子化は、D I C Sの導入により、添付文書情報が電子媒体で閲覧及び検索ができるようになった。また、採用薬一覧を電子カルテ上で検索できるようになった。
 - ・ 医薬品情報管理業務の効率化については、S A F E - D Iの導入により、添付文書改訂など安全性情報や経過措置情報等で効率化できた。
 - ・ ホームページも採用薬一覧、安全性情報、採用情報などが閲覧できるように

なった。

- ・ 病棟担当薬剤師による情報提供についても、Aチーム、Bチーム、Cチームなどチーム編成により相互体制ができ強化できた。
- ② 薬事委員会
 - ・ 消化器系薬剤を中心に循環器系薬剤、精神病薬剤の見直しと削減ができた。
 - ・ 採用規定の見直しを行い、薬事委員会、医局会を経て採用薬が決定されるようになった。
- ③ 化学療法委員会
 - ・ 化学療法治療計画の院内共有化ができた。
 - ・ 癌化学療法レジメンの見直しと追加ができた。
- ④ 教育実習業務
 - ・ 薬学生病院実務実習の受入体制の構築ができた。
- ⑤ 緩和ケア委員会
 - ・ PCA機能付き鎮痛薬注入システムの導入を行った。
- ⑥ 院内感染対策委員会
 - ・ 抗菌薬に係る使用届出書の提出率がほぼ100%になった。
 - ・ 抗菌薬使用状況及び消毒薬（一部）の使用状況を電子カルテシステムに掲載できた。
- ⑦ 薬剤管理業務
 - ・ 薬剤室以外（病棟・外来等）の在庫点検に係るルールの遵守と業務の強化ができた。

2 平成21年度評価

目標を掲げ、実践したことにより、診療内容の向上に貢献し、多くの成果を上げることができた。今後さらに患者サービスや薬剤師の資質向上に努めていきたい。

3 平成22年度目標

- ① 医薬品情報管理業務
 - ・ 最新のD Iの収集に努め、病院スタッフへの伝達を行う。
 - ・ 薬剤部だよりを毎月定期発行する。
- ② 薬事委員会
 - ・ DPC導入に向けての注射薬後発品の選定導入を目指す。
- ③ 化学療法委員会
 - ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算（70点/月）の実施
- ④ 教育実習業務
 - ・ 薬学6年制に伴う病院実務実習を当院で実施する。
- ⑤ 院内感染対策委員会
 - ・ 抗MRSA薬の適正使用にTDMを通じて貢献する。
 - ・ 緑膿菌耐性が増加してきているので、カルバペネムの適正使用に貢献する。
 - ・ 院内の感染対策講習会で抗生物質の適正使用について啓蒙する。

- ・ 学会発表にも積極的に取り組み、得られた知見を院内の感染対策に活かす。
 - ・ ラウンド（感染ラウンド、環境ラウンド）への参加
 - ・ 認定薬剤師の取得を目指し、講習会等にも積極的に参加する。
- ⑥ 栄養サポートチーム
- ・ 薬剤師2名が栄養管理に係る所定の研修を修了する。
 - ・ 栄養サポートチーム加算200点の算定を目指す。
 - ・ NST認定薬剤師を目指す。
- ⑦ 緩和ケア委員会
- 8月にある緩和ケア勉強会の資料を作成する。
- ⑧ 医薬品安全管理業務
- ・ 医薬品安全研修会を年2回開催する。
 - ・ 薬剤師1人当たり少なくとも半年に1枚はインシデントレポートを提出し、調剤過誤や医療安全に対する認識を高める。
- ⑨ 薬剤管理業務
- ・ 自動錠剤分包機の薬品使用量を調査し、見直す。
 - ・ 麻薬の適正使用に向けて、麻薬の取扱いの要点をまとめ、周知する。

5 看護部

1 平成21年度活動及び評価

- ① 接遇
- ・ コミュニケーション訓練として、毎朝1分間スピーチを実施した。スピーチテーマ「接遇」を月間テーマとして行ったことで、病棟会議等でその評価結果が多く聞かれ、意識が高まっている。患者又は家族から褒められる言葉が多くなったと感じる看護職員が多くなった。
 - ・ 身だしなみチェックを毎朝仕事開始時に徹底し、意識付いた。
- ② 質的成果を目指した業務改善
- ・ 夜勤体制や早出・遅出業務の見直しを図った。日勤業務に人員を置き、ベッドサイドへ行く時間を増やした。
 - ・ 各学会や研修会等、事例研究・看護研究発表を積極的に行う姿勢を持つため、学会参加や研修参加を働きかけた。その結果、専門分野への興味関心、キャリア開発に意欲的な看護師が増え、特定看護分野への学習意欲が高まってきた。今後も継続したい。
- ③ 教育制度
- ・ 「業務一覧表＝習熟度、到達度」評価が各期遅れ、実践評価の個人分析に至らなかった。来年度「クリニカルラダー」に沿って新たな教育制度の下、活用を目指す。
 - ・ 「クリニカルラダー」を作成した。また、評価表や教育プログラムの改正等、教育制度そのものの見直しと再編を行った。

- ④ NANDA—NOC・NIC の活用
 - ・ 記録監査委員会活動である記録監査が徹底されなかった。来年度研修会計画を作成した。
 - ・ グループ勉強会は年5回しか行えず、参加が50%に達しなかった。
- ⑤ DPC 導入に向けた活動
 - ・ 各部署勉強会を年2回行った。パスを増やしたが医師との連携がなかなか取れず、実施には至っていない。実施できるパス作成に向けて、今後医師を含めた部署検討会を持つ。

2 平成22年度目標

- ① 臨床実践能力を高め、看護の質、サービスの向上に努める。
 - ・ クリニカルラダー（ステップアップ研修）を積極的に活用する。
 - ・ アセスメント力（看護記録～NANDAの活用～）をつける。
- ② 診療報酬を見据えた経営戦略に積極的に参画する。
（入院基本料7対1取得と看護補助加算に向けた取組み）
 - ・ 入退院調整の重要性を認識し、ベッドコントロール意識を高める。
 - ・ 看護必要度の充実を図る。
 - ・ DPCに向けた看護システムを充実させる。
- ③ 離職防止を図り、職務満足を高める。
 - ・ 新人看護職員指導のサポート体制を強化する。
 - ・ 法改正に伴う育児、介護、看護の支援を図る。
 - ・ 有給休暇の取得率を上げる。
- ④ タイムマネジメント能力を高める（超過勤務の削減）。

6 事務局

(1) 総務企画課

1 平成21年度活動及び評価

- ① 経常収支比率 97.3%
- ② 医業収支比率 90.7%
- ③ 職員給与費対医業収益比率 53.8%

平成21年度に掲げた上記数値目標は達成できた。しかしながら、中期経営計画の評価委員会において、各部局の実施目標がなく、具体性に乏しいとの評価を受けたので、22年度以降、より詳細なアクションプランを立てて改善につなげていきたい。

2 平成22年度目標

救急、高度、災害等医療の充実など地域の医療ニーズに対応できるよう機能の充

実を図りつつ、紹介率の向上などにより入院診療中心の診療体制への移行を推進し、もって地域医療連携の中心的役割を担うとともに急性期病院としての確立を目指す。

① 取り組むべき課題（経営課題）

- ・ 人材の確保・育成
- ・ 医療の質の向上
- ・ 経営基盤の確立
- ・ 患者サービスの向上
- ・ 救急医療、高度医療への対応
- ・ 地域医療機関との連携など

② 平成22年度数値目標（財務・医療機能）

- ・ 経常収支比率・・・・・・・・・・93.9%
- ・ 医業収支比率・・・・・・・・・・90.3%
- ・ 職員給与費対医業収益比率・・・53.8%

(2) 医療サービス課

1 平成21年度活動

① DPC 準備病院への参加

DPC 準備委員会の発足、DPC 様式1画面の電子カルテへの掲載、研修会への参加など、準備病院としての体制を整備した。特に、情報入力について、医師、看護師及び医療サービス課職員が分担するなど当院全体で取り組めた。

② 紙カルテの廃止及び事務室の移転

平成21年8月に紙カルテの地下倉庫移設が完了し、事務室を移転した。また、患者の苦情や窓口対応等に迅速に対応できるようになった。

2 平成21年度評価

平成21年度目標を確実に実行することができた。

DPC については平成23年度から請求病院に移行する予定であるが、職員にその概要を理解してもらえ、情報入力等基本ルールを確立できたことは非常に良かった。

また、事務室を移設した関係で窓口業務が簡素化できたことと、元の事務室に診療録管理室を移設したことで、情報システム室との連携が深まり、統計情報等今までより、迅速かつ正確に出せるようになった。

3 平成22年度目標

① DPC 請求病院に向けての準備

- ・ DPC 請求のためのノウハウを病棟クラークに指導し、請求に備える。
- ・ DPC データを活用し、医師に協力を依頼する。
- ・ DPC データ及びコスト分析システム導入に向け協力する。（実施主体：総務企画課）

② 未収金削減に向けた取組み

未収金回収に向けて未収金台帳の再整備を実施するとともに、徴収のルール化を徹底する。

また、未収金回収委託法人との連携を強化し、前年度末より未収金を削減する。

③ 医療情報システムの充実

電子カルテと未接続の重症記録（HCU）システム、透析管理システムについて、電子カルテと接続し、データの正確性を確保するとともに、職員の負担軽減を図る。

また、地域連携システムを入れ替え、電子カルテとの親和性を図る。

IV 業務の概要

1 患者の状況

(1) 入院・外来別患者数

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
入院	患者数(人)	95,403	101,363	99,970
	対前年度比(%)	110.9	106.2	98.6
	開院日(日)	366	365	365
	一日平均(人)	260.7	277.7	273.9
	病床利用率(%)	78.5	83.6	82.5
	平均在院日数(日)	20.8	21.2	20.1
外来	患者数(人)	184,741	181,506	172,546
	対前年度比(%)	101.4	98.2	95.1
	開院日(日)	245	243	242
	一日平均(人)	754.0	746.9	713.0
合計	患者数(人)	280,144	282,869	272,516
	対前年度比(%)	104.4	101.0	96.3

(2) 患者数の推移

① 入院患者数

	病床数				患者延数(人)	対前年度比(%)	1日平均患者数(人)
	一般	感染	ドック	無菌			
平成16年度	342	2	6		105,881	97.2	290.1
平成17年度	342	2	6		88,872	83.9	243.5
平成18年度	287	2	6	1	86,060	96.8	235.8
平成19年度	323	2	6	1	95,403	110.9	260.7
平成20年度	323	2	6	1	101,363	106.2	277.7
平成21年度	323	2	6	1	99,970	98.6	273.9

② 外来患者数

	患者延数(人)	対前年度比(%)	1日平均患者数(人)
平成16年度	211,239	92.2	869.3
平成17年度	181,609	86.0	744.3
平成18年度	182,269	100.4	744.0
平成19年度	184,741	101.4	754.0
平成20年度	181,506	98.2	746.9
平成21年度	172,546	95.1	713.0

(3) 診療科別患者数

	入院				外来			
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	対前年度比	平成19年度	平成20年度	平成21年度	対前年度比
内 科	20,766	26,890	24,862	92.5	34,040	34,098	37,101	108.8
神 経 内 科	487	427	8	1.9	1,740	1,631	1,382	84.7
消 化 器 科	6,085	6,340	7,917	124.9	7,390	8,287	8,780	105.9
循 環 器 科	7,715	5,763	6,860	119.0	13,558	13,688	12,541	91.6
小 児 科	2,641	3,496	3,616	103.4	9,566	9,643	10,677	110.7
外 科	18,170	16,087	14,081	87.5	12,006	11,381	10,520	92.4
整 形 外 科	12,798	16,631	16,850	101.3	23,920	21,864	19,983	91.4
脳 神 経 外 科	10,626	10,535	10,817	102.7	9,500	9,077	8,108	89.3
皮 膚 科	1,459	593	1,321	222.8	13,184	12,486	13,188	105.6
泌 尿 器 科	5,544	4,786	5,419	113.2	12,209	12,180	12,843	105.4
産 婦 人 科	7,556	7,785	7,130	91.6	9,962	9,310	6,321	67.9
眼 科	293	380	302	79.5	6,785	6,575	6,380	97.0
耳 鼻 い ん こ う 科	742	1,249	514	41.2	5,461	5,473	4,814	88.0
放 射 線 科					886	1,030	723	70.2
神 経 科 精 神 科					8,147	7,765	1,381	17.8
麻 酔 科	35	56	32	57.1	3,263	2,499	2,966	118.7
リハビリテーション科					5,886	5,899	6,827	115.7
歯 科 口 腔 外 科	486	345	241	69.9	7,238	8,620	8,011	92.9
合 計	95,403	101,363	99,970	98.6	184,741	181,506	172,546	95.1

(4) 市町村別患者数

		平成19年度						平成20年度						平成21年度					
		外来		入院		合計		外来		入院		合計		外来		入院		合計	
		実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率	実患者数	比率
県内	敦賀市	71,899	81.8	2,866	77.1	74,765	81.6	72,235	81.6	2,978	76.9	75,213	81.4	69,831	81.8	3,044	76.5	72,875	81.6
	美浜町	8,263	9.4	364	9.8	8,627	9.4	8,282	9.4	374	9.7	8,656	9.4	7,860	9.2	407	10.2	8,267	9.3
	若狭町	4,405	5.0	221	5.9	4,626	5.0	4,457	5.0	235	6.1	4,692	5.1	4,340	5.1	250	6.3	4,590	5.1
	その他	1,147	1.3	78	2.1	1,225	1.3	1,201	1.4	70	1.8	1,271	1.4	1,082	1.3	72	1.8	1,154	1.3
県外		2,173	2.5	189	5.1	2,362	2.6	2,311	2.6	215	5.6	2,526	2.7	2,240	2.6	207	5.2	2,447	2.7
合計		87,887	100.0	3,718	100.0	91,605	100.0	88,486	100.0	3,872	100.0	92,358	100.0	85,353	100.0	3,980	100.0	89,333	100.0

(5) 月別患者数

平成21年度

入院

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合
内 科	2,240	2,103	1,980	2,031	2,112	1,924	2,011	2,047	2,322	2,203	1,741	2,148	24,862	68.1	24.9
神 経 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	0.0	0.0
消 化 器 科	606	645	601	734	627	448	690	668	557	738	823	780	7,917	21.7	7.9
循 環 器 科	606	637	581	539	465	402	433	501	462	673	800	761	6,860	18.8	6.9
小 児 科	343	412	207	340	297	263	188	266	364	331	302	303	3,616	9.9	3.6
外 科	1,319	1,158	1,218	1,345	1,206	1,098	1,274	1,113	1,262	1,144	1,053	891	14,081	38.6	14.1
整 形 外 科	1,384	1,421	1,387	1,349	1,135	1,128	1,408	1,440	1,476	1,608	1,435	1,679	16,850	46.2	16.9
脳 神 経 外 科	969	1,094	805	800	962	717	786	918	996	965	813	992	10,817	29.6	10.8
皮 膚 科	153	83	114	91	141	117	152	147	91	87	55	90	1,321	3.6	1.3
泌 尿 器 科	234	267	299	454	562	527	528	564	498	527	445	514	5,419	14.8	5.4
産 婦 人 科	724	635	659	734	513	446	630	517	523	569	594	586	7,130	19.5	7.1
眼 科	17	23	23	22	29	41	32	28	17	23	31	16	302	0.8	0.3
耳 鼻 い ん こ う 科	30	45	18	31	93	91	24	4	53	33	41	51	514	1.4	0.5
放 射 線 科															
神 経 科 精 神 科															
麻 酔 科	0	0	0	17	3	0	0	12	0	0	0	0	32	0.1	0.0
リハビリテーション科															
歯 科 口 腔 外 科	24	31	29	6	15	14	25	26	30	4	16	21	241	0.7	0.2
合 計	8,649	8,554	7,921	8,493	8,160	7,216	8,181	8,251	8,651	8,905	8,157	8,832	99,970	273.9	100.0

外来

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合
内 科	3,027	2,968	2,987	3,155	3,145	3,057	3,202	3,050	3,202	3,126	2,890	3,292	37,101	153.3	21.5
神 経 内 科	126	120	119	101	126	95	128	115	108	99	108	137	1,382	5.7	0.8
消 化 器 科	740	692	711	754	775	693	789	714	733	666	721	792	8,780	36.3	5.1
循 環 器 科	1,219	990	1,138	1,050	1,103	1,012	1,039	1,016	969	993	979	1,033	12,541	51.8	7.3
小 児 科	871	755	924	803	938	762	851	1,237	904	767	928	937	10,677	44.1	6.2
外 科	935	885	956	950	895	811	891	873	860	804	764	896	10,520	43.5	6.1
整 形 外 科	1,779	1,666	1,861	2,001	1,887	1,522	1,676	1,483	1,561	1,514	1,377	1,656	19,983	82.6	11.6
脳 神 経 外 科	765	672	717	733	683	680	721	601	675	610	573	678	8,108	33.5	4.7
皮 膚 科	1,214	1,057	1,307	1,258	1,250	1,081	1,036	958	975	918	950	1,184	13,188	54.5	7.6
泌 尿 器 科	960	996	1,115	1,147	1,167	1,057	1,061	1,083	1,112	958	1,109	1,078	12,843	53.1	7.4
産 婦 人 科	579	520	582	565	550	533	554	496	479	394	454	615	6,321	26.1	3.7
眼 科	536	512	531	552	526	505	523	523	570	473	500	629	6,380	26.4	3.7
耳 鼻 い ん こ う 科	446	421	427	450	412	379	365	347	369	369	376	453	4,814	19.9	2.8
放 射 線 科	79	73	62	47	59	48	67	61	45	56	57	69	723	3.0	0.4
神 経 科 精 神 科	120	90	105	132	123	126	131	111	119	108	108	108	1,381	5.7	0.8
麻 酔 科	254	210	267	241	229	247	286	265	219	240	224	284	2,966	12.3	1.7
リハビリテーション科	540	481	618	619	536	526	608	534	531	527	597	710	6,827	28.2	4.0
歯 科 口 腔 外 科	713	623	724	735	662	621	745	663	610	558	591	766	8,011	33.1	4.6
合 計	14,903	13,731	15,151	15,293	15,066	13,755	14,673	14,130	14,041	13,180	13,306	15,317	172,546	713.0	100.0

(6) 救急患者の取扱状況

平成19年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	281	308	237	250	338	234	266	251	345	375	263	275	3,423
神 経 内 科	2	2	4	2	5	3	0	2	1	4	3	0	28
消 化 器 科	15	6	9	8	15	14	6	10	9	15	10	7	124
循 環 器 科	55	36	35	31	28	45	24	37	40	52	37	47	467
小 児 科	179	151	140	170	142	96	104	101	174	181	120	144	1,702
外 科	53	54	60	68	60	68	56	47	65	47	45	55	678
整 形 外 科	132	170	141	164	200	124	150	105	125	98	107	110	1,626
脳 神 経 外 科	98	87	77	99	85	100	98	96	100	92	75	101	1,108
皮 膚 科	35	67	60	79	74	61	52	40	46	46	15	34	609
泌 尿 器 科	23	32	27	31	40	34	26	29	31	24	32	31	360
産 婦 人 科	39	32	33	35	42	27	27	14	34	34	33	21	371
眼 科	22	26	23	27	13	23	23	16	23	10	9	10	225
耳 鼻 い ん こ う 科	32	26	33	31	36	39	22	21	38	26	18	23	345
放 射 線 科													0
神 経 科 精 神 科	8	6	5	5	4	2	11	6	6	2	6	8	69
麻 酔 科	0	0	2	0	2	2	0	0	0	1	1	1	9
リハビリテーション科													0
歯 科 口 腔 外 科	15	9	27	14	11	11	14	3	7	13	7	15	146
合 計	989	1,012	913	1,014	1,095	883	879	778	1,044	1,020	781	882	11,290
入院患者数(再掲)	155	119	132	123	142	142	96	105	168	146	128	119	1,575
救 急 車 台 数	180	165	156	159	204	156	138	151	196	184	169	159	2,017

平成20年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	239	273	252	300	328	269	268	236	311	513	311	315	3,615
神 経 内 科	0	2	0	2	1	1	2	5	3	0	1	2	19
消 化 器 科	8	9	9	16	7	19	8	7	15	8	4	4	114
循 環 器 科	32	44	38	26	50	27	38	50	39	50	23	46	463
小 児 科	131	145	146	164	127	93	88	108	199	189	152	149	1,691
外 科	65	39	52	69	57	56	40	40	33	37	25	44	557
整 形 外 科	115	130	119	169	165	141	122	147	131	89	78	82	1,488
脳 神 経 外 科	76	92	92	79	91	75	104	106	103	67	73	74	1,032
皮 膚 科	24	40	54	65	82	61	43	36	48	25	21	32	531
泌 尿 器 科	29	27	26	39	39	26	29	26	20	29	22	20	332
産 婦 人 科	33	30	42	34	30	21	38	30	32	27	26	19	362
眼 科	12	17	11	17	28	18	10	19	25	13	5	15	190
耳 鼻 い ん こ う 科	24	39	35	30	30	30	48	31	33	25	23	31	379
放 射 線 科													0
神 経 科 精 神 科	2	2	3	2	9	0	4	5	2	1	1	3	34
麻 酔 科	4	1	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	12
リハビリテーション科													0
歯 科 口 腔 外 科	13	7	6	10	13	8	11	11	14	9	4	12	118
合 計	807	897	888	1,025	1,057	845	854	857	1,008	1,082	769	848	10,937
入院患者数(再掲)	123	142	141	128	126	129	108	105	134	118	101	123	1,478
救 急 車 台 数	136	148	156	185	168	145	159	160	168	141	121	151	1,838

平成21年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	286	358	243	281	366	349	357	469	436	425	301	303	4,174
神 経 内 科	2	0	5	1	5	1	3	3	1	3	2	2	28
消 化 器 科	10	13	3	11	6	12	10	4	13	10	13	9	114
循 環 器 科	28	38	31	28	20	31	28	22	36	42	24	29	357
小 児 科	174	192	137	130	164	201	208	495	311	194	184	166	2,556
外 科	45	64	54	37	37	34	36	35	46	24	21	21	454
整 形 外 科	121	124	105	126	147	126	100	100	107	96	74	88	1,314
脳 神 経 外 科	78	79	73	70	86	78	70	63	82	63	36	69	847
皮 膚 科	40	52	45	49	64	55	39	29	32	37	21	26	489
泌 尿 器 科	23	24	27	40	28	29	30	17	34	29	19	14	314
産 婦 人 科	22	42	22	20	37	32	48	46	46	30	30	31	406
眼 科	14	28	8	11	15	21	11	16	18	9	4	3	158
耳 鼻 い ん こ う 科	23	38	10	22	30	32	21	20	31	27	28	31	313
放 射 線 科													0
神 経 科 精 神 科	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
麻 酔 科	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0	5
リハビリテーション科													0
歯 科 口 腔 外 科	15	17	17	10	13	9	8	5	10	7	5	7	123
合 計	882	1,069	782	836	1,018	1,010	969	1,325	1,204	996	765	799	11,655
入院患者数(再掲)	100	109	102	95	123	116	145	134	187	173	122	140	1,546
救 急 車 台 数	122	146	125	149	154	130	117	118	152	175	116	123	1,627

(7)患者搬送の状況

(順不同)

	平成19年度	平成20年度		平成21年度			
		病院救急車 利 用 数	周産期医療 関係搬送数	病院救急車 利 用 数	周産期医療 関係搬送数		
市 内	3	11	7	9	1		
県 内	62	67	23	10	67	13	9
石川県	5	2			5	2	2
岐阜県		2	1		1		
愛知県		2	2				
大阪府	2				2	2	
京都府	1	2			1	1	
滋賀県		1					
岡山県		1	1				
静岡県	1						
合計	74	88	34	10	85	19	11

平成20年度より、病院救急車利用数及び母体搬送等周産期医療関係の搬送数を掲載。

2 総合健診の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19年度	1日ドック	17	25	29	45	65	43	38	32	55	34	7	27	417
	2日ドック	1	5	5	7	4	5	10	6	5	3	2	3	56
	政管一般	11	73	158	116	104	106	120	108	56	32	94	43	1,021
	政管ドック	1	3	4	4	3	7	4	5	2	3	4	0	40
	2次検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金 額	1,043,038	2,924,346	4,770,942	5,200,694	5,664,007	4,557,597	5,141,218	4,355,303	4,149,676	2,564,608	2,426,194	2,476,640	45,274,263
20年度	1日ドック	18	17	21	43	69	46	48	34	66	26	22	22	432
	2日ドック	0	3	2	10	8	7	9	10	5	4	2	3	63
	政管一般	11	66	150	126	93	118	129	84	68	36	87	55	1,023
	政管ドック	2	0	5	2	0	3	4	6	8	1	3	2	36
	2次検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金 額	1,075,204	2,368,125	4,103,592	5,437,090	5,684,219	4,997,943	5,511,020	4,115,638	4,928,315	2,433,803	3,074,667	2,483,672	46,213,288
21年度	1日ドック	2	15	29	46	50	40	38	53	55	23	26	22	399
	2日ドック	0	2	6	5	7	3	2	5	2	5	3	8	48
	政管一般	16	112	132	127	94	99	149	115	72	57	141	62	1,176
	政管ドック	1	2	2	4	5	3	6	1	3	2	6	1	36
	2次検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金 額	454,461	2,852,574	4,266,280	5,117,841	4,826,815	4,119,606	4,803,963	4,683,541	4,181,180	2,430,274	4,116,450	2,923,946	44,776,931

3 中央手術室業務の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
内 科			
神 経 内 科	16	29	41
消 化 器 科			
循 環 器 科			
小 児 科	0	0	0
外 科	337	406	421
整 形 外 科	265	404	438
脳 神 経 外 科	41	57	45
皮 膚 科	12	3	35
泌 尿 器 科	126	130	135
産 婦 人 科	110	108	87
眼 科	152	226	137
耳 鼻 い ん こ う 科	18	13	8
放 射 線 科	0	0	0
神 経 科 精 神 科	0	0	0
麻 酔 科	3	0	2
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	0	0	0
歯 科 口 腔 外 科	38	29	30
合 計	1,118	1,405	1,379

4 種類別麻酔件数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
全 身 麻 酔	539	718	736
腰 椎 麻 酔 ・ 硬 膜 外 麻 酔	205	216	238
局 所 麻 酔	374	471	405
そ の 他	0	0	0
合 計	1,118	1,405	1,379

5 内視鏡検査件数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
食 道 ・ 胃 ・ 十 二 指 腸	3,134	3,158	3,316
膵 ・ 胆 道	59	89	100
大 腸	937	1,019	1,065
気 管 支	8	73	85
合 計	4,138	4,339	4,566

6 周産期医療の状況

	平成19年度							平成20年度							平成21年度								
	正常分娩			異常分娩			合計	正常分娩			異常分娩			合計	助産師外来の 開設状況 (延数)	正常分娩			異常分娩			合計	助産師外来の 開設状況 (延数)
	成熟	早産	小計	成熟	早産	小計		成熟	早産	小計	成熟	早産	小計			成熟	早産	小計	成熟	早産	小計		
4月	28	1	29	13	0	13	42	28	0	28	3	1	4	32	6	22	0	22	5	1	6	28	10
5月	18	0	18	5	0	5	23	26	0	26	5	0	5	31	4	26	0	26	8	0	8	34	6
6月	29	1	30	2	0	2	32	19	0	19	3	1	4	23	12	22	0	22	3	0	3	25	9
7月	23	0	23	6	0	6	29	24	0	24	5	0	5	29	15	26	0	26	11	0	11	37	9
8月	29	1	30	6	0	6	36	23	0	23	12	0	12	35	8	26	2	28	3	0	3	31	5
9月	26	0	26	5	0	5	31	30	0	30	5	0	5	35	6	21	0	21	3	1	4	25	10
10月	23	0	23	4	0	4	27	23	0	23	10	0	10	33	16	32	1	33	2	0	2	35	8
11月	19	0	19	5	0	5	24	24	1	25	6	0	6	31	12	22	0	22	5	0	5	27	2
12月	20	0	20	9	0	9	29	25	1	26	6	0	6	32	10	25	2	27	4	0	4	31	5
1月	22	0	22	8	0	8	30	23	2	25	4	0	4	29	8	20	2	22	6	0	6	28	5
2月	20	0	20	2	0	2	22	19	0	19	4	0	4	23	5	20	1	21	4	0	4	25	12
3月	23	1	24	8	0	8	32	17	0	17	10	0	10	27	6	20	0	20	3	1	4	24	7
合計	280	4	284	73	0	73	357	281	4	285	73	2	75	360	108	282	8	290	57	3	60	350	88

分娩・・・妊娠12週以後

異常分娩・・・帝王切開、吸引等保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号)により、医師の診療が必要とされる分娩

早産・・・妊娠37週未満(早産児)

平成20年度より「助産師外来の開設状況」の欄を掲載。

7 薬剤室業務の状況

(1) 調剤業務の状況

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
調 剤 数	外来	221,546	219,655	14,116
	入院	27,365	29,575	60,468
	合計	248,911	249,230	74,584
処方箋枚数	外来	7,250	6,807	7,941
	入院	8,878	9,723	30,696
	合計	16,128	16,530	38,637

※ 電子カルテ導入に伴い、平成21年度より算出方法を変更した。

(2) 薬品の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
取扱品目（品目）	1,326	1,301	1,155
薬品収入（A）（千円）	107,367	107,930	106,729
薬品費（B）（千円）	99,095	103,798	96,586
薬品使用効率（A）／（B）（％）	108.3	104.0	110.5

(3) 服薬指導の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
服薬指導患者数	1,250	1,812	2,356
服薬指導延回数	1,985	2,247	2,987

(4) 注射剤調製の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
外来注射（化学療法）	644	890	1,241
外来注射（レミケード注他抗リウマチ薬）	15	13	41
入院注射（化学療法）	386	400	309
入院注射（レミケード注他抗リウマチ薬）	9	18	42
入院注射（中心静脈）	0	0	0

8 放射線科(室)の状況

(1)撮影の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
一般撮影	29,117	29,717	29,646
尿路撮影(DIP)	372	331	302
透視撮影	845	1,178	1,085
血管造影撮影	397	464	582
C T (2 台)	10,034	11,361	11,592
M R I (1 台)	3,338	3,616	3,660
超音波診断	3,802	3,819	3,795
R I	1,039	1,069	1,126
放射線治療	1,507	1,688	719
骨密度測定	362	324	383
マンモグラフィー	1,006	1,144	1,340
合計	51,819	54,711	54,230

(2)フィルム使用の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
半切	15,625	17,609	8,760
半切CR用	67,512	76,653	51,298
大角	14,364	14,168	5,832
大四切	9,296	10,823	5,671
四切	7,854	9,923	4,934
六切	6,048	5,876	2,711
B4判CR用			2,095
18×24	3,749	4,153	1,257
コピーフィルム	2,925	4,892	4,531
CD / DVD			746
合計	127,373	144,097	87,835

(3)血管撮影検査の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
脳神経外科	50	66	79
循環器科	293	322	377
放射線科	54	76	126
合計	397	464	582

(4) MRI検査の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
院内件数	3,070	3,263	3,341
院外件数	273	353	319
合計	3,343	3,616	3,660
頭部件数	1,944	1,860	1,746
体部件数	1,399	1,756	1,914
合計	3,343	3,616	3,660

(5) CT検査の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
M D C T	6,396	8,522	8,660
Single C T	3,638	2,839	2,932
合計	10,034	11,361	11,592
院内件数	9,782	11,115	11,366
院外件数	252	246	226
合計	10,034	11,361	11,592

(6) 核医学検査の状況

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
脳神経系	脳血流	117	140	134
	脳血流(負荷)	1	2	3
	脳	118	145	137
	脳槽			
	シャントフロー			
循環器系	心筋血流(同期)	54	73	111
	心筋脂肪酸代謝	3	25	91
	心筋交感神経	90	43	74
	急性心筋梗塞	10	8	10
	代謝+血流同時	66	50	84
	負荷心筋(運動)	60	49	32
	負荷心筋(薬剤)	36	33	24
	心プール	1	3	4
	四肢血流(上肢)			1
	四肢血流(下肢)	5	4	5
	静脈血栓	8	11	3
	循環血漿流量		1	
呼吸器系	肺血流	21	18	22
	肺換気	2	1	29
	静脈血栓	7	3	4
消化器系	肝		1	
	胆道	1		4
	唾液腺	6	8	8
	メッケル憩室	2		
	蛋白漏出試験		7	9
	異所性胃粘膜			
	胃排泄能試験			
	門脈循環短絡			
消化管出血	4	8		
内分泌系	甲状腺	14	6	11
	副甲状腺	1	1	1
腎尿路系	レノグラム	33	47	45
	レノグラム(負荷)	2	1	3
	腎	9	9	11
	副腎	5	2	4
	精巣			
全身検索系	骨	212	217	227
	腫瘍・炎症	133	160	169
	骨髄			1
	リンパ節			2
	筋血流			
合計		903	934	1,126

(7)放射線治療の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
新患数	60	96	43
延治療件数	1,507	1,688	719

(8)マンモグラフィーの状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
ドック件数	348	382	382
ドック外件数	658	762	958
合計	1,006	1,144	1,340

(9)骨密度検査の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
延件数	362	324	383

(10)エコー検査の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
頸部	268	334	384
頸部血管	650	500	456
乳腺	534	698	840
腹部	2,258	2,194	1,996
四肢血管	82	86	108
その他	10	7	11
合計	3,802	3,819	3,795

9 人工透析の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
多人数用装置	11,840	12,719	13,189
単身用装置	241	218	182
合計	12,081	12,937	13,371

平成21年度末現在

患者数(定期) 96人

多人数用装置設置台数 21台(透析センター)

単身用装置設置台数 2台(透析センター 1台、HCU 1台)

イーカム用血液浄化機 3台(MEセンター 2台、HCU 1台)

※単身用装置実績にイーカム用も含む。

10 臨床検査の状況

(1) 各種検査件数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
検 尿 検 便	337,572	369,329	379,301
検 血	336,421	368,063	367,695
生 化 学	859,193	944,712	927,707
細 菌	68,105	89,796	87,613
生 理 機 能	24,059	23,020	23,271
そ の 他	17,512	18,908	20,485
合 計	1,642,862	1,813,828	1,806,072

(2) 生理機能検査件数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
1 2 誘 導 心 電 図 検 査	14,429	14,365	14,399
3 分 間 心 電 図	129	79	71
マスター負荷心電図	1,182	1,120	879
簡易ベクトル心電図	93	65	59
ホルター心電図	1,056	1,464	1,147
心 臓 超 音 波	2,327	2,792	3,138
脳 波 検 査	252	218	228
神 経 電 導 検 査	93	127	99
聴 性 脳 幹 反 応	19	8	23
ス パ イ ロ メ ト リ ー	1,376	1,973	2,101
可 逆 性 試 験	13	78	86
精 密 肺 機 能 検 査	56	13	7
咳 テ ス ト	1		
A B I / P W V	266	387	632
C V R - R	35	26	7
心 臓 カ テ ー テ ル	276	280	331
O D テ ス ト		3	24
聴 力 検 査	2,456		
終夜睡眠ポリグラフィー(簡易)		10	16
終夜睡眠ポリグラフィー		12	24
合 計	24,059	23,020	23,271

(3) 血液製剤使用量(単位数)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
赤血球	1,285	1,663	1,639
血小板	870	910	690
新鮮凍結血漿	769	364	203
自己血	56	40	12
アルブミン	3,130	3,491	3,256
合計	6,110	6,468	5,800

11 リハビリテーションの状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
運動	24,064	29,221	31,628
水治療	737	564	488
物理	4,385	3,500	5,750
作業	11,424	9,256	9,791
装具	5	4	2
言語	4,523	7,246	6,506
摂食	651	201	374
合計	45,789	49,992	54,539

12 患者給食の状況

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
普通食	通常	50,354	57,841	56,240
	軟食	58,260	53,474	65,234
	流動食	2,851	3,293	2,252
	小計	111,465	114,608	123,726
特別食	外来透析	557	882	882
	その他	118,015	116,024	104,292
	小計	118,572	116,906	105,174
付添食		1,313	1,515	444
職員食		0	0	0
合計		231,350	233,029	229,344
栄養指導	個人指導	142	97	107
	集団指導	12	15	20
	合計	154	112	127

13 死亡患者数及び病理解剖件数

	死亡患者数			病理解剖件数			病理解剖検査率		
		男	女		男	女		男	女
平成13年度	176	113	63	34	19	15	19.3	16.8	23.8
平成14年度	224	141	83	32	17	15	14.3	12.1	18.1
平成15年度	217	151	66	24	16	8	11.1	10.6	12.1
平成16年度	257	151	106	25	17	8	9.7	11.3	7.5
平成17年度	193	113	80	15	9	6	7.8	8.0	7.5
平成18年度	262	147	115	11	3	8	4.2	2.0	7.0
平成19年度	288	170	118	16	9	7	5.6	5.3	5.9
平成20年度	300	199	101	12	10	2	4.0	5.0	2.0
平成21年度	252	156	96	12	9	3	4.8	5.8	3.1

* 平成21年度から、電子カルテ導入に伴い、死亡退院数を死亡患者数として扱う。

14 地域医療連携の状況

(1) 紹介及び逆紹介の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
全診療情報提供書受理数	3,900	4,101	3,969	
紹介患者(初診) A	2,346	2,228	1,703	
初診料算定患者 B	17,910	16,275	15,779	
外来初診後即入院患者 C	828	847	747	
外来時間外初診患者 D	5,605	5,577	6,234	
逆紹介数(診療情報料算定) E	2,201	3,240	3,066	
紹介率(*1)	25.8	28.7	25.7	(*1) 紹介率=[(A+C)÷(B-D)]×100
逆紹介率(*2)	17.9	30.3	32.1	(*2) 逆紹介率=[E÷(B-D)]×100

(2) 亜急性期病床の状況

平成20年度		平成21年度	
患者数(人)	延日数(日)	患者数(人)	延日数(日)
145	2,634	167	2,736

(3) ボランティアの活動状況

平成21年度

- | | | |
|-----------|-----------------|----------------|
| ○活動人数 16名 | ○活動内容 | ○活動状況 |
| ○活動時間 | ・新規患者受付の説明及び手伝い | ・活動人数 745人 |
| 午前8時～午後0時 | ・再診受付機の説明 | ・活動日数 242日 |
| | ・自動精算機の説明及び手伝い | ・一日平均活動人数 3.1人 |
| | ・車椅子の整備(空気入れ等) | |
| | ・子供連れの方への受診手伝い | |
| | ・各科外来、検査室までの案内 | |
| | ・受診の付添い | |

15 医療安全の状況

(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減
注 射	155	163	202	39
与 薬	181	135	174	39
調 剤	32	71	51	△ 20
窒 息	3	2	0	△ 2
転 倒	59	84	102	18
ドレーン自己抜去	17	42	29	△ 13
そ の 他	667	784	864	80
合 計	1,114	1,281	1,422	141

(2) 根本原因分析の実施状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減
合計	22	31	17	△ 14

16 災害医療部会の活動状況

本部会は、「災害時に病院職員が適切な行動をとれること」、「1人でも多くの命を守ること」を目標にしている。今年度は特に災害時の初動対応について活動を行った。

(1) 活動計画

① 災害時の初動対応マニュアルの作成

初動対応は災害の規模により対応が異なることや職員の理解の度合いが違ふことから統一したマニュアル作成は難しく感じられた。今年度はアクションカード（具体的な初動対応を記載したカード）を作成した。

② 初動対応訓練

11月15日に災害看護研修を行った（参加者は看護部の師長・主任・上席ナース）。井上師長の講義とアクションカードを使用した机上演習を行った。地震発生後、時系列に従い各部署が情報収集と被災状況の報告を繰り返すことで初動対応の理解が深まった。

③ 緊急被ばく医療の勉強会

11月18日、緊急被ばく医療の講義と現場での対応のビデオ視聴を行った。訓練につながる知識が習得できた。

④ 福井県原子力防災総合訓練の参加

11月22日、美浜発電所3号機の一次冷却水漏洩や炉心損傷が起こり周辺環境の悪化という想定で訓練が行われた。当院においては災害処置室で1名の汚染患者を受け入れた。手順書をどこかに張り出すことや準備する物品の見直しが必要であった。

⑤ トリアージの勉強会

2月22日、23日の両日で70名の参加で行った。災害拠点病院の役割を理解することやトリアージの手順を理解した。

⑥ トリアージの訓練

2月27日に参加者19名、被災者ボランティア19名で行った。高速バスでの横転事故を想定し、トリアージタグを使用して行った。被災者との対話から得られる情報や身体の外傷などからトリアージの色を想定し緊急度分類を行った。参加者からは実際の場面での不安、被災者からは声をかけられることでの安心感など主催側が求める理解ができた。

⑦ DMA T研修会参加の検討

今年度は、研修会に参加するための検討に入った。来年度には参加できるように準備していく。

(2) 活動の振り返り

初動対応についてはこれからも継続して研修をする必要がある。DMA T参加は当院が災害拠点病院として必要な研修である。来年度は必ず参加して地域の防災訓練などに協力したい。

17 救急蘇生法普及部会の活動状況

本部会は、院内における救急蘇生の技術向上を目的として活動している。前年度の反省からICLSコースのインストラクターの教育と参加しやすい体制作りが求められた。

(1) 活動計画

① BLS講習会（毎月）

4月の新人教育とまだ受講していない職員や希望する部署にて実施する。

② ICLS講習会（年2回）

今年度は広域（嶺南や湖北）から受講生やインストラクター協力をよびかけて、名称も「市立敦賀病院ICLSコース」から「つるがICLSコース」に変更し、地域の拠点として活動していく。

③ 救命処置訓練

部署でのコードブルーの発信から救命までの訓練を実施する。

(2) 年間活動

① BLS講習会

6月…6階病棟、7月…透析・HCU、8月…北4階病棟（心リハ室）

9月…北3階病棟、11月…北5階病棟、12月…北5階病棟

② ICLS講習会

第2回…10月31日、第3回…2月13日

③ 救命処置訓練

実施することができなかった。

(3) 活動の振り返り

① BLS講習会

各部署での実施により、部署での蘇生における不備などが明確になってきた。参加者からは、「実施してよかった」との意見が多く、今後も継続する必要がある。

② ICLS講習会

ICLSは2回の開催でよい形がつけられている。今後も継続していく事業であるが質と量の維持について検討が必要である。コース運営には器材が必要だがすべて院外からの借用に頼っている現状である。ハートシムや気道管理トレーナーなどの購入も検討していきたい。また、院外への広報活動にも力を入れていきたい。

18 TQM委員会の活動状況

当院における医療及び業務の質の向上を図り、良質な医療を提供するため、当該委員会を平成21年5月に設置した。その中で、14のサークルを立ち上げ、課題を選定して、研究・打合せを重ねて、平成22年2月にTQM大会を開催し、院内職員に向けて発表した。

平成22年2月26日

発表順	テーマ	サークル名 (所属)
1	未収金回収委託について	医療サービス課 (医療サービス課)
2	タキソテールの溶解液を変更して医療過誤をなくそう	薬剤Aチーム (薬剤室)
3	感染性医療廃棄物の減量に向けて	4 F Y G (整形外科・本館4階病棟)
4	給食業務委託後、円滑な業務連携をするには	吉田部屋 (栄養管理室)
5	患者の知りたい気持ちに応えよう ～大腸カメラ検査に関する？を知ろう～	内視鏡 (内視鏡室)
6	電子カルテ・リハメイトの理解向上を目指して!	リハビリテーション科 (リハビリテーション室)
7	泌尿器科チームの不安の軽減 ～特性要因図による不安の分析より～	スマイルグループ (本館3階病棟)
8	6階病棟における申し送り形態の改善 ～口頭申し送り時間の短縮～	コンパニーヨ (本館6階病棟)
9	血液ガス分析検査の運用を見直そう!	血ガス検討チーム (検査室)
10	外来業務の効率化 ～掲示板の有効活用を目指す～	秘の泌 (マルヒノマルヒ) (泌尿器科)
11	市立敦賀病院イメージアップ作戦 ～ホームページアクセス件数を増やそう～	HP推進向上部 (中央手術室・臨床工学技術室・総務企画課)
12	特殊指示撮影における見落としをなくそう! ～患者様のオーダーメイド医療を目指して～	オーダーメイドYMM (放射線室)
13	係間の正確な業務伝達を目指して	連携室 (地域医療連携室)
14	外来不良レセプトを減らす	歯科口腔外科 (歯科口腔外科)

<審査結果>

1位：HP推進向上部、2位：4 F Y G、3位：秘の泌、院長賞：吉田部屋

V 固定資産状況

1 有形固定資産の取得状況

平成18年度

単位:円

品名	メーカー名	金額	備考
免疫発光測定装置	フクダ電子(株)	3,360,000	検査室
昇降浴槽	酒井医療(株)	6,510,000	本館2階介護浴室
超音波診断装置	(株)フィリップス	36,697,500	心エコー室
解析付多機能心電計	フクダ電子(株)	1,270,500	本館6階病棟
医療機器安全解析装置	フクダ電子(株)	1,239,000	MEセンター
3ランクギャッチベッド(木目パネル仕様)	パラマウントベッド(株)	4,164,300	本館6階病棟
セントラルモニタシステム	フクダ電子(株)	4,704,000	内視鏡室
尿路系X線撮影システム外	(株)島津製作所	23,415,000	放射線科
多用途筋機能評価運動装置	酒井医療(株)	14,490,000	リハビリテーション科
生理検査・採血患者案内情報システム	(株)テクノメディカル	21,945,000	検査室
高気圧酸素治療装置	川崎エンジニアリング(株)	31,899,000	高気圧酸素治療室
合計		149,694,300	

平成21年度

単位:円

品名	メーカー名	金額	備考
人工呼吸器(2台)	フジ・レスピロニクス(株)	4,305,000	MEセンター

2 主要医療機器の設置状況(20,000千円以上の機器)

単位:千円

設置場所	品名	取得年月	数量	金額
中央手術室・中央材料室	手術顕微鏡	平成6年8月	1	31,500
内科外来	血管連続撮影装置	平成7年1月	1	248,640
	心拍変動スペクトラシステム	平成7年6月	1	21,788
本館6階病棟	患者監視システム(16人用)	平成8年5月	1	24,150
放射線科	カラードプラー装置	平成8年11月	1	31,605
	X線骨密度測定器	平成9年11月	1	22,890
	核医学診断装置(デジタルガンマカメラシステム)	平成9年12月	1	139,650
	X線コンピューター断層撮影装置	平成10年12月	1	191,100
薬剤室	全自動錠剤分包機・薬袋印字機	平成11年6月	1	29,715
内科外来	多チャンネル心電図解析記録装置	平成11年7月	1	29,925
放射線科	多用途測定記録装置	平成12年5月	1	25,200
	核磁気共鳴断層撮影装置	平成12年12月	1	316,733
検査室	多項目自動血球分析装置	平成13年12月	1	34,755
放射線科	デジタルガンマカメラ	平成14年11月	1	108,150
内科外来	医用リニアアクセラータ	平成17年3月	1	382,725
	位置決め用全身用X線CT装置	平成17年3月	1	68,040
	二方向型循環器撮影装置	平成17年3月	1	154,875
中央手術室・中央材料室	アルファマック手術台	平成17年6月	6	57,918
	高温蒸気滅菌装置(クリーン蒸気発生器付)フロアローディングカート一式	平成17年6月	1	22,365
	低温プラズマ滅菌システム	平成17年6月	1	28,350
北診療棟5階	胎児集中監視システム	平成17年7月	1	23,520
放射線科	多目的オールデジタルX線テレビ装置	平成17年7月	1	66,150
HCU	患者情報統合システム外	平成17年7月	1	33,075
	生体情報モニタ・ベットサイドモニタシステム	平成17年7月	1	23,625
	心血管用超音波診断装置	平成17年7月	1	29,400
放射線科	全身用X線断層撮影装置	平成17年11月	1	236,250
中央手術室・中央材料室	高温蒸気滅菌装置セミフロアローディングカート一式	平成17年11月	1	23,373
放射線科	循環器用画像保存装置	平成17年11月	1	23,625
本館7階病棟	無菌病室	平成18年3月	1	45,150
泌尿器科	体外衝撃波結石破碎装置	平成18年3月	1	69,090
検査室	採血管準備システム	平成18年3月	1	22,575
心エコー室	超音波診断装置	平成18年7月	1	36,698
放射線科	尿路系X線撮影システム外	平成18年8月	1	23,415
検査室	生理検査・採血患者案内情報システム	平成18年9月	1	21,945
高気圧酸素治療室	高気圧酸素治療装置	平成18年10月	1	31,899

3 企業債・減価償却の状況

(1) 企業債の年度別状況

単位:千円

	発行総額	当年度償還高	償還高累計	未償還残高	企業債利息
平成15年度	7,123,400	348,190	1,881,934	5,189,656	183,044
平成16年度	9,608,400	344,743	1,881,934	5,241,466	186,974
平成17年度	9,799,400	354,613	2,011,677	7,596,723	224,856
平成18年度	9,636,300	282,651	2,332,942	7,303,358	220,882
平成19年度	9,765,300	291,949	2,624,891	7,140,409	213,853
平成20年度	9,587,400	300,312	2,747,303	6,840,097	205,349
平成21年度	9,587,400	338,179	3,085,481	6,501,919	195,020

(2) 減価償却額の年度別状況

単位:千円

	建物	構築物	器械・備品	車両	無形固定資産	減価償却費累計
平成15年度	71,869	3,425	222,797	1,031	57	299,179
平成16年度	70,660	2,387	207,965	1,031	38	282,081
平成17年度	63,537	1,909	178,415	871	19	244,751
平成18年度	196,545	2,958	152,755	809	0	353,067
平成19年度	207,357	2,854	127,599	809	0	338,619
平成20年度	207,142	2,724	91,988	650	0	302,504
平成21年度	204,784	2,724	63,498	144	0	271,150

VI 研究業績

1 診療部

内科

(学会発表)

- 1 Wire Perforationに脂肪塞栓が有効であった1例
音羽勘一, 三田村康仁, 中野学, 池田孝之
日本心血管インターベンション学会第21回東海北陸地方会, 2009年5月, 富山市.
- 2 診断に苦慮した腹膜透析患者における進行性多巣性白質脳症(PML)の1剖検例
小林元夫, 藤永晴夫, 中野学, 三田村康仁, 浅井純, 清水和朗, 音羽勘一, 五十嵐一誠, 高橋秀房, 米島學
日本内科学会第209回北陸地方会, 2009年9月, 石川県内灘町.
- 3 発作性心房粗動と心房細動の再発予防に、アミオダロン、カルベジロールの投与が有効であった維持透析の1例
青木裕, 三田村康仁, 中野学, 音羽勘一, 池田孝之
日本循環器学会第134回東海・第119回北陸合同地方会, 2009年11月, 名古屋市.
- 4 Torsade de pointesによる意識消失発作で発見されたQT延長症候群に房室ブロックを合併した1例
中野学, 音羽勘一, 前田拓郎, 三田村康仁, 池田孝之
日本循環器学会第134回東海・第119回北陸合同地方会, 2009年11月, 名古屋市.
- 5 蛋白漏出性胃腸症を呈した膠原繊維性大腸炎の1例
瀧澤大地, 藤永晴夫, 浅井純, 清水和朗, 音羽勘一, 高橋秀房, 米島學, 池田孝之, 原田憲一*
第49回日本内科学会北陸支部主催教育講演会, 2010年3月, 福井市.

(講演)

- 1 ガイドラインに沿った心房細動治療
音羽勘一
心房細動治療を考える会, 2010年5月, 敦賀市.
- 2 喫煙の健康被害について
音羽勘一
敦賀いきいき生涯大学, 2010年5月, 敦賀市.

- 3 COPDに関する最近の話題と医療連携について
高橋秀房
敦賀市医師会学術講演会, 2009年6月, 敦賀市.
- 4 PK/PD理論の解説と呼吸器感染症に対する外来抗菌薬治療について
高橋秀房
敦賀市薬剤師会講演会, 2009年6月, 敦賀市.
- 5 抗不整脈薬とARB併用療法のピットフォール
池田孝之
循環器領域特別講演会, 2009年7月, 福井市.
- 6 福井県統一AMI連携パス(敦賀エリア)について
音羽勘一
福井県統一急性心筋梗塞連携パス(敦賀エリア)を考える会, 2009年8月, 敦賀市.
- 7 カプセル内視鏡の使用経験
米島學
GERD Seminar in FUKUI(福井県内科医会), 2009年9月, 福井市.
- 8 臨床現場において生理検査室に求められる役割
音羽勘一
福井県心電図研究会, 2009年10月, 福井市.
- 9 GERDの診断と治療
米島學
敦賀市医師会学術講演会, 2009年10月, 敦賀市.
- 10 もっと知りたい大腸がんの治療
米島 學
大腸がん撲滅 敦賀市民フォーラム, 2009年11月, 敦賀市.
- 11 心室細動のため救急搬送された若年発症の糖尿病の1例
三田村 康仁
第4回福井県心電図・不整脈懇談会, 2009年12月, 福井市.

- 12 喘息治療の新しい考え方
高橋秀房
小浜学術講演会, 2009 年 12 月, 小浜市.
- 13 高コレステロール血症治療に関する最近の動向
音羽勘一
敦賀市薬剤師会講演会, 2010 年 1 月, 敦賀市.
- 14 福井県における喘息死の疫学と治療の課題
高橋秀房
Asthma Symposium in FUKUI, 2010 年 2 月, 福井市.
- 15 早期胃癌に対する内視鏡治療—ESD を中心に—
米島 學
敦賀市医師会学術講演会, 2010 年 3 月, 敦賀市.
- 16 消化性潰瘍診療の現状—NSAID, 抗血栓薬, ピロリ菌との関連を中心に—
米島 學
敦賀市医師会学術講演会, 2010 年 3 月, 敦賀市.
- 17 生活習慣病と心血管疾患
音羽 勘一
敦賀市市民公開講座, 2010 年 3 月, 敦賀市.

外科

(論文発表)

- 1 成人男性の後腹膜に発生した成熟型奇形腫の 1 例
佐藤裕英, 渡辺剛史*, 森川充洋*, 林泰生, 飯田茂穂
臨床外科学会雑誌 70(1):243-248, 2009.
- 2 ベバシズマブが奏功した大動脈周囲リンパ節転移と多発性肝転移を伴う直腸癌の一切除例
林泰生, 佐藤裕英, 加藤成, 森川充洋*, 上藤聖子, 市橋匠, 飯田茂穂
日本臨床外科学会雑誌 70 増刊: 716, 2009.

(学会発表)

- 1 下肢静脈瘤に対する局所麻酔下ストリッピング
飯田茂穂, 前田拓郎, 加藤成, 上藤聖子, 林泰生, 佐藤裕英, 市橋匠
第 32 回北陸血管懇話会, 2009 年 7 月, 金沢市.
- 2 術中超音波を用いての局麻下ストリッピング
飯田茂穂
第 29 回日本静脈学会総会, 2009 年 7 月, 名古屋市.
- 3 STRIPPING UNDER TUMESCENT LOCAL ANESTHESIA USING ULTRA SOUND SCANNING DURING OPERATION
飯田 茂穂
XVIth World Meeting of the UNION INTERNATIONALE DE PHLEBOLOGIE, 2009 年 9 月, モナコ.

(講演)

- 1 虚血肢の診かた
飯田茂穂
第 10 回レジデントフォーラム福井, 2009 年 7 月, 永平寺町.

整形外科

(論文)

- 1 高齢者上腕骨遠位端骨折 (coronal shear fracture) に対して人工肘関節置換術を施行した 1 例
重本顕史, 朝田尚宏, 柳下信一, 五十嵐健太郎
中部日本整形外科災害外科学会雑誌, 53: 431-432, 2010.

(学会発表)

- 1 MIS-THA を行う上での手術手技上の工夫について
朝田尚宏
Zimmer MIS THA Course, 2009 年 4 月, オーストラリア パース.
- 2 骨切り部への骨移植を必要とした, Dall' s approach による THA の 1 例
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 重本顕史, 五十嵐健太郎, 山田義夫, 加畑多文*
第 38 回北陸リウマチ・関節研究会, 2009 年 7 月, 金沢市.

- 3 左母指 CM 関節症に対して関節固定を行った 1 例
右母指リウマチ性 MP 関節症に対してプレートによる関節固定を行った 1 例
朝田尚宏
TOB 研究会, 2009 年 9 月, 金沢市.
- 4 骨切り部への骨移植を必要とした, Dall' s approach による THA の 1 例 (ポスター)
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 重本顕史, 五十嵐健太郎, 山田義夫, 加畑多文*
第 36 回日本股関節学会, 2009 年 10 月, 京都市.
- 5 高齢者上腕骨遠位端骨折 (coronal shear fracture) に対して人工肘関節置換術を施術した 1 例 (ポスター)
重本顕史、朝田尚宏、柳下信一、五十嵐健太郎
第 113 回中部日本整形外科災害外科学会, 2009 年 10 月, 神戸市.
- 6 血清 MMP-3 値が 1000ng/ml 以上を呈した疾患活動性の高い関節リウマチ患者 3 例に対する治療経験
朝田尚宏, 柳下信一, 五十嵐健太郎, 青木裕, 田尻和八, 山田義夫
第 2 回 Biologics 研究会, 2009 年 11 月, 福井市.
- 7 TKA 術後の感染の 1 例
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 五十嵐健太郎, 山田義夫
第 6 回関節外科懇話会, 2009 年 11 月, 福井市.
- 8 当院における人工骨頭置換術の検討
柳下信一, 朝田尚宏, 田尻和八, 五十嵐健太郎, 山田義夫
第 37 回日本関節病学会, 2009 年 11 月, 横浜市.
- 9 肘関節粉碎脱臼骨折に対し Semiconstrained type TEA を施行した 1 例
五十嵐健太郎, 朝田尚宏, 田尻和八, 柳下信一, 重本顕史, 山田義夫
第 37 回日本関節病学会, 2009 年 11 月, 横浜市.
- 10 早期 RA に対してエンブレルを導入したが、手関節破壊が進行した 1 例
肩関節痛を主訴として診断に至った早期 RA の 1 例
朝田尚宏
第 1 回嶺南基幹病院合同カンファレンス, 2009 年 12 月, 小浜市.

11 TKA 術後の感染の 1 例

柳下信一

第 1 回嶺南基幹病院合同カンファレンス, 2009 年 12 月, 小浜市.

12 Case Reports: Acetabular reconstruction using with HA cement, HA granule and support ring cup for the massive bone defect after the removal of the MRSA-infected bipolar hip prosthesis

朝田尚宏

8th Marcel Kerboull Institute Forum CMK Original Concept Course, 2010 年 1 月, パリ.

13 高齢者の肘関節周囲関節内粉碎骨折に対し一期的に人工肘関節全置換術を施行した 2 例

朝田尚宏, 柳下信一, 五十嵐健太郎, 重本顕史, 田尻和八, 山田義夫

第 16 回救急整形外傷シンポジウム, 2010 年 3 月, 石垣市.

(講演会)

1 骨粗鬆症の内科的治療と外科的治療について

朝田尚宏

三方郡医師会学術講演会, 2009 年 7 月, 美浜町.

2 RA について

市立敦賀病院における Etanercept 投与の使用経験

朝田尚宏

エンブレル勉強会, 2009 年 9 月, 敦賀市.

3 市立敦賀病院における生物学的製剤の使用経験

朝田尚宏

敦賀市薬剤師会, 2009 年 12 月, 敦賀市.

4 当院におけるアクテムラ投与症例の治療経験

朝田尚宏

アクテムラ投与症例検討会, 2010 年 2 月, 福井市.

皮膚科

(著書)

第 I 章 日常診療で出会う症状・症候へのアプローチ

1. 頻度の高い症状 ⑦発疹	P35-37	朝井靖彦
第Ⅱ章 臓器・疾患別の薬の使い方		
12. 皮膚疾患 ①湿疹・皮膚炎群	P549-554	朝井靖彦
②蕁麻疹	P555-557	朝井靖彦
③皮膚感染症	P558-566	朝井靖彦
④薬疹	P567-569	朝井靖彦
⑤褥瘡	P570-573	朝井靖彦
第Ⅲ章 諸科にわたって使われる薬剤		
3. 抗アレルギー薬	P653-663	朝井靖彦
治療薬・治療指針ポケットマニュアル 2010 小谷和彦*, 朝井靖彦 編集, 羊土社, 東京, 2010.		

泌尿器科

(学会発表)

- 1 当院での緩和ケアチームの立上げ
澤田樹佳
JPAP オレンジサークルアワード, 2009年6月, 大阪市.
- 2 Ureterosciatic hernia の一例
澤田樹佳, 三原信也
第424回日本泌尿器科学会北陸地方会, 2009年6月, 金沢市.
- 3 後腹膜に発生した低悪性度繊維粘液性肉腫の一例
三原信也, 澤田樹佳, 黒川哲之, 原田憲一
第61回日本泌尿器科学会西日本総会, 2009年11月, 高松市.

産婦人科

(講演)

- 1 10代の妊娠と性感染症
山崎洋
平成21年度文部科学省委託「性に関する教育」普及推進事業
「子育て講演会」, 三方中学校, 2009年12月, 若狭町.

麻酔科

(学会発表)

- 1 体外循環中脳波のパワースペクトラム、エントロピー、及び、バイコヒーレンス解析
三田建一郎, 林和子*, 佐藤倫祥, 清水久美子*, 次田佳代*, 松木悠佳*
日本麻酔科学会第 56 回学術集会, 2009 年 8 月, 神戸市.
- 2 Becker 型筋ジストロフィー患者に対するロクロニウムの使用経験
関久美子*, 川上浩文, 重見研司*
第 7 回日本麻酔科学会 東海北陸支部学術学会, 2009 年 11 月, 名古屋市.
- 3 大腿骨化膿性骨髄炎に対する搔爬術中のショックに対し血液浄化療法が有効であった 1 症例
佐藤倫祥, 三田建一郎, 信川泰成*, 安田善一*, 重見研司*
第 13 回北陸急性血液浄化療法談話会, 2009 年 11 月, 金沢市.

(講演)

- 1 美浜発電所事故における初期被ばく医療機関での対応
杉浦良啓
北海道「緊急被ばく医療初級講座」, 2009 年 7 月, 岩内町.
- 2 美浜発電所事故における初期被ばく医療機関での対応
杉浦良啓
愛媛県「緊急被ばく医療初級講座」, 2009 年 8 月, 松山市.
- 3 美浜発電所事故における初期被ばく医療機関での対応
杉浦良啓
新潟県「緊急被ばく医療初級講座」, 2009 年 10 月, 上越市.
- 4 美浜発電所事故における初期被ばく医療機関での対応
杉浦良啓
大阪府「緊急被ばく医療初級講座」, 2010 年 2 月, 大阪市.

歯科口腔科

(論文発表)

- 1 関節鏡視下手術所見と滑液中の酵素活性との関連についての検討
高塚茂行*, 吉田完, 窪田善之*, 表武典*, 寺井功一*, 山田宗宏*, 中川清昌*, 山本悦秀*
日本顎関節学会雑誌 21(2) : 143-149, 2009.

2 医療支援部

医療安全管理室

(学会発表)

- 1 根本分析活動支援の試み—ステップ方式による分析ツールの試作—
杉浦 良啓
第11回日本医療マネジメント学会学術総会, 2009年6月, 長崎市.
- 2 根本原因分析(RCA)の現状
塚原洋子, 角本則子, 岡田貴子, 杉浦良啓
第11回日本医療マネジメント学会学術総会, 2009年6月, 長崎市.
- 3 根本原因分析の現状と医療安全強化への取り組み
塚原洋子, 岡田貴子, 角本則子, 杉浦良啓
第9回医療マネジメント学会福井県地方会, 2010年3月, 敦賀市.

3 医療技術部

検査室

(学会発表)

- 1 新開発の「ダイヤカラー・HDL, LDL」の基礎的検討
東正浩, 湊正佳
日本臨床検査自動化学会 第41回大会, 2009年10月, 横浜市.

- 2 経胸壁心エコー図検査が診断の契機となった先天性左側心膜欠損症の一例
河野裕樹, 坊直美, 奥村早央里, 湊正佳, 中野学, 三田村康仁, 音羽勘一, 木船孝一, 池田孝之
日本超音波医学会第 29 回中部地方会, 2010 年 1 月, 金沢市.

リハビリテーション室

(学会発表)

- 1 糖尿病患者の血糖コントロールと家庭環境との関連性について
増井正清
第 44 回日本理学療法学会大会, 2009 年 5 月, 東京都.
- 2 関節可動域改善を中心とした変形性膝関節症の症例
高木隆幸
第 14 回福井県理学療法学会大会, 2010 年 3 月, 福井市.

(講演)

- 1 当院のリハビリテーションの現状と地域との連携
高井悦子
第 6 回地域公開医療講座, 2009 年 11 月, 敦賀市.
- 2 運動療法
増井正清
第 10 期福井糖尿病療養指導担当者教育講習会, 2009 年 9 月, 福井市.

4 薬剤部

薬剤室

(学会発表)

- 1 タキソテル注調製法の変更に伴う患者アンケート調査
長谷川真理子, 中川昌尚, 西島勝之, 竹田美佳, 大久保康広, 中川麻里, 藤長宏昌, 松坂琴美,
松見美由紀
日本薬学会第 130 年会一般学術発表 (ポスター), 2010 年 3 月, 岡山市.

(講演)

- 1 院外処方箋の疑義照会に関する現状と問題点

大久保康広

福井県薬剤師会学術情報委員会・保険委員会と合同の疑義照会に関する研修会,
2009年11月, 敦賀市.

5 看護部

(論文発表)

- 1 一般病棟看護師の終末期がん患者との関わりにおけるジレンマ患者の倦怠感に焦点を当ててー

奥佐知子, 湊直子, 田辺里江, 田中知子

第40回日本看護学会論文集 看護総合, 255-257.

- 2 心筋梗塞の発作の認知と発作後の療養行動

迫田智子*, 田中知子 *敦賀市立看護専門学校

第40回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ, 242-244.

(学会発表)

- 1 一般病棟看護師の終末期がん患者との関わりにおけるジレンマ患者の倦怠感に焦点を当ててー

奥佐知子, 湊直子, 田辺里江, 田中知子

第40回日本看護学会 看護総合, 2009年7月, 京都市.

- 2 末梢静脈カテーテルの規定期間内の交換を目指した取り組み

植木真粧美, 奥野照代, 下町真理子

第40回日本看護学会 看護総合, 2009年7月, 京都市.

- 3 当院における災害拠点病院としての災害教育の取り組み

井上ひろみ

日本災害看護学会第11年次大会, 2009年8月, 神戸市.

- 4 心筋梗塞の発作の認知と発作後の療養行動

迫田智子*, 田中知子 *敦賀市立看護専門学校

第40回日本看護学会 成人看護Ⅱ, 2009年9月, 鳥取市.

- 5 独居アルツハイマー型認知症患者への療養支援
加藤久代
第 14 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2009 年 9 月, 札幌市.
- 6 当院における化学療法室の現状と課題
上野奈美, 山田里美, 百田美樹子
日本看護技術学会 第 8 回学術集会, 2009 年 9 月, 旭川市.
- 7 尿路結石患者の再発防止に向けての看護支援の検討ークリニカルパス作成を通してー
小林奈未, 角田敬子, 迫田智子* *敦賀市立看護専門学校
第 40 回日本看護学会 成人看護 I, 2009 年 10 月, さいたま市.
- 8 術中の家族の心理状態に焦点を当てた術中訪問の効果
高橋昌子, 川島あゆみ, 北川由佳, 宮崎泰子
2009 東海北陸地区看護研究学会 看護総合, 2009 年 11 月, 福井市.
- 9 在宅人工呼吸器装着患者事例報告
城越広恵
第 2 回二州高齢者包括研究会, 2010 年 1 月, 敦賀市.
- 10 心筋梗塞患者が心臓カテーテル治療に抱く思い
今大地さとみ, 網島果生里, 小林奈未, 迫田智子* *敦賀市立看護専門学校
第 27 回福井県看護研究発表会, 2010 年 3 月, 福井市.
- 11 整形外科疾患患者に対する術前オリエンテーションの課題ー術前パンフレットを使用し
てー
山田里美, 中川実紀
第 27 回福井県看護研究発表会, 2010 年 3 月, 福井市.
- 12 当院における化学療法室の現状と課題
上野奈美, 山田里美, 百田美樹子
第 9 回日本医療マネジメント学会福井県支部学術集会, 2010 年 3 月, 敦賀市.

6 臨床病理検討会

	CPC開催日	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	CPC開催回数
1	平成21年6月19日 内科 市立敦賀病院	肺炎・ 肺癌・ 多発性脳梗塞・ ・ ・	1 [右肺癌(未治療、肺内転移あり)]・ 2 [下行結腸癌(術後、再発なし)]	1 軽度肺うつ血(左 410g,右 430g)・ 2 軽度右心室線維化(350g)・ 3 冠動脈粥状硬化症(左前下行枝)・ 4 活動性胃潰瘍+胃瘻造設後状態・ 5 腎嚢胞(左190g、右135g)・ 6 軽度大動脈粥状硬化症・ 7 疥癬	1 誤嚥性肺炎(左下葉、左410g、右430g)・ 2 多重癌・ ・肺癌(右肺門、低分化扁平上皮癌、腺癌への分化を伴う。転移なし)・ ・大腸癌(術後14年、再発なし)	1 大動脈粥状硬化症(軽度)・ 2 右心室脂肪浸潤(350g)・ 3 胃瘻造設後状態+胃潰瘍・ 4 [多発性脳梗塞]・ 5 [疥癬]	平成21年度 第1回CPC
2	平成21年7月13日 内科 市立敦賀病院	原発性LK・ 右中葉の腺癌・ 両側副腎、リンパ節、椎骨に転移・	1 肺癌(右中葉4×3.5×3)・ 2 両側副腎腫瘍(左5.0cm大、右5.1cm大)・ 3 脾腫瘍(2cm大と0.8cm大)・ 4 回腸腫瘍(回腸末端1cm大)・ 5 多発骨転移(腰椎がsampling)・ 6 腹部リンパ節腫大(腸間膜、肝内、脾周囲)	1 肺うつ血水腫(505g;835g)・ 2 腎梗塞瘢痕(115g;110g)・ 3 胆石、胆のう炎+コレステロシス・ 4 大動脈粥状硬化症、軽度・ 5 肝うつ血(885g)・ 6 幽門側胃切除後状態(直腸、膀胱、前立腺、甲状腺は含まれず)	肺癌(右中葉、肺門型、4.0×3.5×3.0cm、腺癌、混合型(乳頭型、腺房型)、脈管侵襲高度、pT2,pN3,pM1,pStageIV)・ 転: 両側副腎、脾臓、右腎臓、回腸、虫垂、胆嚢、肋間脂肪織、[多発骨転移]・ リ: 肺門、気管分岐部、頸部、腸間膜、脾周囲、傍大動脈	1 肺うつ血水腫+肺気腫(505g;835g)・ 2 るいそう(身長154cm、体重38kg、BMI 16.0)・ 3 大動脈粥状硬化(軽度)+腎硬化症(115g;110g、軽度)・ 4 胆石胆のう炎+コレステロシス・ 5 肝うつ血(885g)・ 6 脾臓脂肪浸潤軽度(130g)・ 7 胃点状出血・ 8 幽門側胃切除後状態	平成21年度 第2回CPC
3	平成21年10月29日 内科 市立敦賀病院	敗血症・ 肝膿瘍から敗血症性肺塞栓症疑い・ 背景に糖尿病あり・	肝膿瘍(右葉,8.5×8.0cm大)(肝重量2215g)[+敗血症]	1 肺結節状病変(両肺に多発,最大径4cm大)(肺重量:左460g,右610g)・ 2 腎腫脹(両側腎盂内に少量の膿汁あり)(腎重量:左285g,右270g)・ 3 脾腫(感染脾)(脾重量460g)・ 4 気道内粘稠喀痰(少量)・ 5 大動脈粥状硬化症(腹部に軽度)・ 6 胆嚢摘出後(胆石症)・ 7 [糖尿病]・ (臓器摘出後状態)	1 肝膿瘍(肝重量2215g)(右葉に8.5×8.0cm大の多房様の膿瘍あり、組織学的にグラム陰性菌を認める)+敗血症性肺塞栓症(肺重量:左460g、右610g)(左右肺に最大径5.5cm大までの限局性の気管支肺炎病巣が多発、肺胞腔や小動脈内にグラム陰性菌を認める)・ 2 [糖尿病](大動脈粥状硬化症(軽度)、脾頭肥大、腎細動脈硝子化、肝脂肪沈着+核糖原(軽度))	1 腎腫脹(腎重量:左285g、右270g)・ 2 感染脾(脾重量460g)・ 3 脾線維化(軽度)(脾重量175g)・ 4 胆管性微小過誤腫・ 5 胆嚢摘出後(胆石症)(術後24年)・ (開頭なし)	平成21年度 第3回CPC

	CPC開催日	臨床診断	マクロ主病変	マクロ副病変	ミクロ主病変	ミクロ副病変	CPC開催回数
4	平成21年11月27日 循環器科 金沢大学	出血性ショック・ 心肺停止で来院。 高度の貧血を認めました。	消化管粘膜出血 *・ 1)胃粘膜出血,高度・ 2)小腸粘膜出血,軽度・ * 胸腹部臓器のみ	1 肝左葉出血(3×2cm大)・ 2 大動脈粥状硬化症,軽度・ 3 腎貯留嚢胞,多発(1cm大まで)・ 4 脾頭部嚢胞(2cm大)	消化管粘膜出血(胃、小腸) + 直腸癌(中分化管状腺癌、転移:右肺)	1 肝左葉出血(3×2cm大)(850g) 2 腎虚血性変化(左150g;右145g) 3 気管支肺炎+肺うっ血+肺動脈骨髄塞栓(左240g;右220g) 4 大動脈粥状硬化症,軽度 5 腎貯留嚢胞,多発(1cm大まで) 6 胆管性微小過誤腫 7 脾貯留嚢胞(2cm大)	平成21年度 第4回CPC
5	平成22年2月25日 循環器科 金沢大学	一過性心室細動・ 心室細動のため、 低酸素脳症となり、 死亡された。	陳旧性心筋梗塞(心臓770g;周囲脂肪結合組織を含む)・ 1)冠動脈バイパス手術後状態(冠動脈硬化症、高度)・ 左冠動脈前下行枝はValsalva洞より1cm開存、回旋枝は6cm開存、右冠動脈はValsalva洞より閉塞。左室壁表面を通るグラフト(両端は途絶)は開存、Valsalva洞より右心耳表面を通るグラフト(遠位端は途絶)も開存。心筋には肉眼剖面像(長軸方向)にて小繊維化を認める。 2)CRT植え込み後状態・ 3)胸膜・心膜の癒着、高度 4)右房・右室の拡張・ 5)大動脈弓粥状硬化症、中等度・ 6)右房・右室の損壊後状態 7)感染性心内膜炎の所見は明確でない。 8)「心室細動」	1 肺うっ血・水腫、軽度(左350g;右435g)・ 1)左肺下葉に気腫性嚢胞(プラ)(7×7×4cm大)・ 2)両肺に炭粉沈着症、高度・ 3)右肺上葉・下葉損壊後状態・ 2 [敗血症]・ 3 [糖尿病]・ 4 [脂質異常症]・ * 心臓、肺、肝(1.8cm大までの2小片)のみの局所解剖	1)高度冠動脈硬化症 2)心肥大(拡張性、770g、周囲脂肪結合組織を含む) 3)傍胸膜線維化(高度) 4)[心室細動] 1 陳旧性心筋梗塞+冠動脈バイパス手術後状態(開存100%)+CRT植え込み後状態	1 肺うっ血・水腫+肺気腫(左350g;右435g) 2 うっ血性肝線維症 3 大動脈弓部粥状硬化症(高度) 4 [敗血症] 5 [糖尿病] 6 [脂質異常症]	平成21年度 第5回CPC

VII 看護部実績

1 記録監査委員会活動報告

○ 目標

- 1 監査グループ
監査を行い記録の充実を図る。
- 2 マニュアル作成グループ
マニュアルを作成し記録の充実を図る。
- 3 看護診断グループ
NANDA-NOC-NIC を充実させる。

○ 組織

		(内訳)	リーダー○
看護部	川瀬看護次長	監査グループ	(加野、山崎、○竹中、杉本)
師長	加野、榎本、山崎	マニュアル	(榎本、○百田、堀内、澤)
委員長	新谷	看護診断	(○新谷、八木)
主任	八木		
看護師	竹中、杉本、百田、堀内、澤		

○ 活動曜日、時間

第 2, 4 金曜日 13:30~14:00

○ 活動内容と課題

1 監査グループ

(1) 活動内容

- ① 11月まで記録監査基準作成
- ② 12月より3回監査を実施
 - ・ 実施した回数が少なかったため、各病棟で比較するまでにはいかなかった。
 - ・ 監査項目ごとに見ると、ほとんど看護診断は立てられている。
 - ・ 3回目の監査では評価記載が全体の50%行われている。
 - ・ 看護プロファイルは抜ける箇所はほとんど同じである。(ブレイデンスケール、日常生活支援)

(2) 課題

看護診断が導入され2年目に入り、各病棟でも浸透してきている。ただ、今は立案されているが患者にあっていないかは不明なことが多い。また、評価・修正はできていないことも多いので引き続き行い、回数も増やすようにする。

2 マニュアル作成グループ

(1) 活動内容

- ① 看護プロフィールの書き方について検討会
- ② 経過表の書き方についての検討会

(2) 課題

各病棟で経過表の使い方、記録の書き方について統一されていないため来年度は研修などを行い、統一を行いたい。

3 看護診断グループ

(1) 活動内容

- ① 5月～10月まで看護診断について委員会で勉強会・自己研修参加を行いスキルアップに臨んだ。また、組織マネージャー会に看護診断の伝達講習を行い各セクションの中心となり、診断立案に努めるように依頼した。
- ② 11月より月2回各病棟での事例検討会を行い看護診断の理解を深めた。
- ③ 3月に看護診断の理解度、今年度の評価のためアンケートを実施した。

(2) 課題

来年度は教育委員・監査グループと協力し妥当な看護診断の立案、計画、評価を行えるよう指導し看護の質を高めていきたい。

2 セーフティーマネージャー委員会活動報告

- 目標 1 リスク感性を高める。
2 RCAを理解し実施する。

- 組織

委員長 藤原貞美子

師長 中西真由美

主任看護師 角本則子・田中智美

看護師 上野奈美・岩間めぐみ・藤長ひろ美・小町恵・安田泉・山田幸代
飯田倫子・水上麻子・武石真由美・西出由華

1 グループ活動計画

- (1) 「リスク感性を高める」: KYT トレーニングを実施する。2ヶ月に1回病棟で勉強会を実施する。
病棟ラウンド（危険箇所がないかチェックする。）
- (2) 「RCAを理解する」: CDRをもとにRCAマニュアルとテンプレートを作成する。

- (3) 「謝罪マニュアル」：初期対応のマッピングについて勉強会を開催する。
- (4) 「与薬管理」：与薬管理シートの見直し
- (5) 「転倒・転落」：アセスメントスコアシートの見直し

2 グループ活動報告

- (1) 「リスク感性を高める」：7月の講習会后、KYT トレーニングを病棟単位で実施できた。
毎月第3週目の委員会後にラウンドを実施しラウンドシートを作成、改善点を記入部署に渡すことができた。
- (2) 「RCAを理解する」：RCAのマニュアルデータを作成できた
- (3) 「謝罪マニュアル」：9月7日に杉浦先生から講義を受け、開催メンバーにIPI分析の普及ができた。
- (4) 「与薬管理」：与薬管理シートの見直しはできなかったが、今年度に発生した与薬に関する症例をまとめ各病棟へ注意を促した。
- (5) 「転倒・転落」：アセスメントスコアシートの見直しは実施できず、アセスメントスコアシートチェックリストの活用度を2回調査した。

3 委員会評価

平成21年度は前年度に引き続きグループ活動を実施した。

各委員は、医療安全大会へ参加し病棟ごとの医療安全への取組を発表した。7月「医療事故防止のための危険予知研修会」後、委員会内でさらに学習し病棟単位で実施した。KYT トレーニングは気軽に取り組み、他のスタッフの意見が参考になるといった意見が多く聞かれたので医療安全対策を身近に考えることのできるひとつの訓練方法として今後も続けていき、医療安全に関する感性を高めていきたい。

3 教育委員会活動報告

○ 目的

多様な医療ニーズに応えるために、判断力や問題解決能力を養い、入院から在宅支援において看護実践能力が発揮でき、継続的で質の高い看護が提供できる人材を育成する。

○ 目標

- 1 ステップ段階に応じた継続教育を実践する。
- 2 ステップ別教育計画の立案と実践を行う。
- 3 看護部教育研修プログラムの充実を図る。

○ 組織

看護部	田中次長
委員長 1名	城越広恵
主任看護師 5名	加藤久代・岡田貴子・奥佐知子 大和田環・赤尾優子
助産師 1名	山本真穂
看護師 5名	宇野里奈・田辺里江・今大地さとみ

○ 活動メンバー

ステップ別	習熟度年数	担当者
ステップ1	卒後1年目	今大地さとみ、宇野里奈
ステップ2	卒後2年目	田辺里江、山本真穂
ステップ3	卒後3年目	赤尾優子、山本真穂
	卒後4～5年目	大和田環
ステップ4	卒後6～10年目	奥佐知子
ステップ5	卒後11～15年目	加藤久代
ステップ6	卒後16年目以上	岡田貴子

1 ステップ1（卒後1年目）研修

（1）基礎看護技術研修Ⅰ（平成21年度）

日 時	開始・終了時間	研修内容	講 師
4月7日（火）	13:00～15:00	接遇の基礎	小堀 和美
	15:15～17:15	記録について	川瀬次長
4月8日（水）	15:00～17:15	滅菌 清潔操作	奥田 理江
4月9日（木）	8:30～12:00	点滴留置・注射	中川 玲子
	13:00～17:15	輸液ポンプシリンジの使い方	藤原 貞美子
4月10日（金）	13:00～14:30	摘便 浣腸	近江谷 未幸
	14:45～17:15	バルン留置	竹阪 直子
4月13日（月）	13:00～17:00	経管栄養	湊 直子
4月14日（火）	13:00～15:00	吸痰	竹中 智子
	15:15～17:15	滅菌	前田 晶子

（2）基礎看護技術研修Ⅱ（研修時間：16:30～18:00）

日 時	研修内容	講 師
平成21年 6月10日（水）	培養に関する知識	検査室 川端
7月 7日（水）	救急看護（挿管介助）	前田 晶子
9月 9日（水）	フィードバック研修	田中次長
10月23日（水）	人工呼吸器に関する知識Ⅰ	ME 中
11月11日（水）	人工呼吸器に関する知識Ⅱ	川端 陽子
11月21日（土）	ケースレポートⅠ発表聴講	
平成22年 1月28日（水）	リハビリテーションの基礎	理学療法士 大和
3月10日（木）	フィードバック研修（1年のまとめ）	田中次長

2 ステップ2（卒後2年目）研修

日 時	研修時間	内 容（担当者）
平成21年 7月27日（金）	16:30～17:30	ケースレポートⅠ説明会（城越・山本）
7月15日（月）	16:30～17:30	第1回 経過報告会（山本）
9月16日（金）	16:30～17:30	第2回 経過報告会（山本）
11月21日（木）	9:00～12:00	ケースレポート発表会
12月 9日（月）	16:30～17:30	ディリダー研修（講師：宇野）
平成22年 3月17日（水）	16:30～17:30	フィードバック研修（講師：田中次長）

3-1 ステップ3-I (卒後3年目) 研修 ケーススタディ研修

日 時	研修時間	内 容 (担当者)
平成 21 年 6 月 24 日 (金)	16:30~17:30	ケーススタディ II 説明会 (田中次長・山本)
8 月 12 日 (金)	16:30~17:30	ケーススタディ II 経過報告 1 (田中次長・山本)
10 月 11 日 (水)	16:30~17:30	ケーススタディ II 経過報告 2 (田中次長・山本)
平成 22 年 1 月 23 日 (土)	9:00~12:00	ケーススタディ II 発表会

3-2 ステップ3-I (卒後3年目) 研修 プリセプター研修

日 時	研修時間	内 容 (担当者)
平成 21 年 5 月 21 日 (木)	17:00~18:00	プリセプター研修 1 回 (岡田) プリセプター研修についての講義
10 月 7 日 (水)	16:15~18:00	プリセプター研修 2 回 (加藤・赤尾) 事例を通して新人看護師とのかかわりを考える。グループワーク・発表
平成 22 年 2 月 15 日 (月)	16:30~17:30	プリセプター研修レポート提出 「新人看護師を支える組織体制について」
		組織マネージャー、新人看護師対象に新人研修についてのアンケート実施 (21 年度)

＜プリセプター研修アンケート結果 主任会プリセプターチーム＞

(1) 新人看護師 9 名の結果

- ① 技術チェックは組織マネージャー、主任、プリセプターがかかわり指導をうけている。
- ② 希望する支援体制について
 - ・ 技術も精神面もプリセプターより支援を受けたい。
 - ・ 技術の指導は組織マネージャーに、精神面の支援は先輩看護師から受けたい。
 - ・ 病棟スタッフ全員にかかわってほしい。
 - ・ 自分の実施している技術が正しいか心配だった。プリセプターを数名設定してほしい。
(常に勤務が同じではないため)
 - ・ 多忙なスタッフに技術を見てほしいと声が掛けづらい。人を選んでしまう。

(2) 組織マネージャー 9 名の結果

- ① 新人看護師に対しての技術チェックは組織マネージャーで行っていた。チェックリストに従い行った。
- ② 組織マネージャーが常に新人看護師と同じ勤務をしているわけではないので、主任や師長の協力も得た。新人看護師にかかわることで、自分も成長できると感じた。
- ③ 病棟スタッフ全員でかかわれた。スタッフからも気づいたことを指摘してくれた。ノートを作成し、新人教育の情報をみんなで活用できた。

(3) その他の意見

- ① 技術のチェックリストが使用しにくい。
- ② 病棟スタッフ全員で新人看護師にかかわる体制がよかった。精神面、技術面を分けると責

任の所在があいまいになるのではないか。

* 特定の指導者を設けたほうが指導しやすいという意見もあり。

③ 新人看護師の指導にかかわり、自分自身も成長できた。

など

4 ステップ3-II (卒後4～5年目) 研修

日 時	研修時間	内 容 (担当者)
平成 21 年 10 月 21 日 (水)	16:30～18:00	卒後 4 年目 リーダーシップ研修【GW】 10 月 31 日 まとめレポート提出
9 月 30 日 (水)		卒後 5 年目 レポート提出 上席看護師の体験をまとめる

5 ステップ4 (卒後6～10年目) 研修

日 時	研修時間	内 容 (担当者)
平成 21 年 9 月 1 日 (火)	17:45～19:00	実習指導について (総論) 敦賀市立看護専門学校 清野副学校長 講義後グループワーク
平成 21 年 11 月 21 日 (土)	8:30～12:00	ケースレポート評価
平成 22 年 2 月 24 日 (水)	16:30～17:30	組織マネージャー研修 (講師: 川瀬次長)

6 ステップ5 (卒後11～15年目) 研修

日 時	研修時間	内 容 (担当者)
ステップ5・6合同研修 平成 21 年 6 月 5 日 (金) 予備日: 6 月 10 日 11 日	16:30～17:00	企画力を鍛えよう 説明会 (加藤)
6 月 26 日 (金)		アクションプランシート提出
平成 21 年 10 月 28 日 (水)		中間報告会 (加藤)
		企画書 アクションプランシート提出
平成 21 年 12 月 4 日 (金)		報告書 アクションプランシート提出
平成 22 年 3 月 27 日 (金)		アクションプラン 最終提出

7 ステップ5 (卒後11～15年目) 研修

日 時	研修時間	内 容 (担当者)
平成 21 年 10 月 28 日 (水)	16:30～17:45	倫理的問題解決のための実践的アプローチ (講師: 川瀬次長・加藤)

* 倫理研修課題レポートで「A 評価」を受けたレポートに関しては、本人の了解のもと各部署にファイリングして配布し、閲覧してもらった。

8 ステップ6（卒後16年目以上）研修

日 時	研修時間	内 容（担当者）
平成21年11月15日（月）	16:30～17:45	アクションプランシート活動報告（岡田）

9 全体研修

日 時	研修時間	内 容（担当者）
平成21年4月22日（水）	17:30～18:30	がん看護実践力向上研修（仲間）
		インスリン療法 虎の巻（加藤）

10 平成20年度 看護部業績報告会 ランチョンセミナー開催

期 日：平成21年9月18日（金）11:30～12:45

場 所：東棟 4階 第一会議室

参加者：39名（院長・看護部部長・看護部次長・看護師）

内 容：平成20年度に学会発表した10題を院内で発表する。

<アンケート結果>

- ・ 各病棟の取組がわかった。看護に活かせる。今後も継続してほしい。
- ・ 看護職ががんばっていることが分かった。
- ・ いろいろな方面で、看護師が研究を発表していることを知った。
- ・ ランチョンでは参加者が少ないのではないか。食事もできない。
- ・ 日勤では参加しにくい。10題の発表は多いので分けてはどうか。 など

11 学生実習指導研修報告

期 日：平成21年9月1日（火） 17:30～18:30

場 所：東棟3階講堂

対象者：卒後2年目から10年目看護師

講 師：敦賀市立看護専門学校 副学校長 清野たか枝先生及び専任教員

内 容：臨地実習指導の悩み及び解決・改善する方策を探る。

講義及びグループワーク

【今年度の委員会成果】

平成21年度は、ステップ段階に応じた教育プログラムの計画と立案、実践を行った。

平成19年度よりステップ別教育プログラムの実践が開始され、この3年間で充実をめざし活動してきた。

今年度はほぼ計画通りに活動がなされた。また、ステップ4以上に対しての教育充実を目指し、新たにアクションプランシートを用いた企画力向上のプログラムを計画した。

企画力向上のプログラムは今年度の新たな取組であったが、目標管理の実践にも役立つと考え、今後も継続して取り組んでいきたい。

また、実習指導の充実を目指し、敦賀市立看護専門学校より講師を招き、ステップ2から4を対象に実習指導についての研修とグループワークを行った。今後も学生指導さらには新人受入れの際にも活用

できると考え、今後も看護専門学校とタイアップしながら、実習指導の充実を図るプログラムを計画していきたい。

平成 23 年度は新人看護職員研修が本格的に開始となる。教育委員会でも新人研修の更なる充実を目指し、教育内容を検討していきたい。

さらに、平成 22 年度はクリニカルラダーを充実させた教育が開始となる。ステップ段階の教育の目的や内容の充実を図り、継続教育を実践していけるよう取り組んでいきたい。

4 教育研修実績

(1) 院内研修実績

	研修会名、講演会名等	主催	参加人数
5月8・14・15日	看護部方針・新組織体制と教育評価制度研修会	看護部	全員
7月3日	医療安全講演会	医療安全対策委員会	102名
7月7日	TQM講演会	TQM委員会	47名
7月11日	実習指導者会研修	実習指導者会	32名
7月16日	感染講習会「N95マスクのフィットテストについて」	院内感染対策委員会	62名
8月19日	市立敦賀病院地域医療連携カンファレンス	地域医療連携室	2名
8月20日	亜急性期病床説明会	看護部	69名
9月1日	効果的な実習指導とは	実習指導者会	42名
9月17日	第4回院内医療安全大会	医療安全対策委員会	96名
10月16日	院内感染対策講演会	院内感染対策委員会	96名
10月20日	第8回パス大会	クリティカルパス委員会	41名
10月29日	平成21年度医療ガス安全講演会	医療ガス安全委員会	54名
10月31日	第2回市立敦賀病院ICLS研修	市立敦賀病院救急蘇生法普及部会	26名
11月15日	災害看護研修	災害医療部会	30名
11月18日	災害医療研修会	災害医療部会	25名
12月3日	第9回パス大会	クリティカルパス委員会	53名
1月15日	緩和ケア勉強会	緩和ケアチーム	36名
2月4日	外科症例検討会「術後急性肺塞栓の救命例」	医療安全対策委員会	8名
2月13日	第3回敦賀ICLS研修会	市立敦賀病院救急蘇生法普及部会	13名
2月16日	医療安全講演会	医療安全対策委員会	63名
2月19日	在宅医療コーディネイト事業講演会	地域医療連携室	27名
2月22・23・27日	トリアージ勉強会	災害対策医療部会	61名
2月26日	TQM大会	TQM委員会	59名
3月11日	医療安全大会	医療安全対策委員会	92名
3月3日	医療ガス安全対策講習会	医療ガス安全委員会	76名
3月15・16日	病院説明会	病院長・事務局・看護部	177名
3月19日	診療報酬に関する講演会	医療サービス課	43名
3月27日	第3回市立敦賀病院市民公開講座	市立敦賀病院	30名
3月30日	院内看護必要度勉強会	看護部	23名

(2) 院外研修実績

	研修会名、講演会名等	主催	参加人数
4月15日	看護連盟会員研修「退院支援のすすめ方」	看護連盟	7名
4月18日	看護研究研修	福井県看護協会	12名
4月29日	感染管理セミナー	日本海面業株式会社メディカルサポート	14名
5月10日	「看護の日 記念大会」(福井市)	福井県看護協会	26名
5月23日	第5回日本医療マネジメント学会地方会セミナー	マネジメント学会	6名
6月6日	第9回嶺南感染コントロールフォーラム(若狭町)	嶺南感染コントロールフォーラム	7名
6月7日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	9名
6月11日	福井循環器病院学習会	福井循環器病院	8名
6月20・21日	日本看護協会出版会全国看護セミナー	日本看護協会出版会	1名
6月24・29日	福井県看護協会平成21年度新人研修会	福井県看護協会	9名
6月27日	日本医療メディエーター北陸支部記念講演会	日本医療メディエーター	8名
7月11日	福井県糖尿病学会学術講演会	福井県糖尿病対策推進会議	1名
7月18日	がん緩和ケア研修公開講座	国立病院機構福井病院	4名
7月18日	看護研究のクリティーク	福井県看護協会	5名
7月18日	日本看護学会学術集会	日本看護学会	7名
7月4・24日	実習指導者講習会公開講座	福井県看護協会	4名
7月25日	福井循環器病院学習会	福井循環器病院	9名
7月26日	第9回固定チーム北陸地方会	北陸地方会事務局	18名
7月29日	全国自治体病院看護管理研修会	全国自治体病院協議会	2名
8月7日	福井県予防接種研修会	福井県健康福祉部 福井大学医学部	1名
8月8日	日本災害看護学会第11回年次大会	日本災害看護学会	1名
8月9日	JAPANリスクマネジメント研修	JAPAN Risk Management	21名
8月23日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	7名
8月29日	看護師を楽しく続けるための基礎セミナー	株式会社ひとりガウンセミナー	8名
8月29・30日	衛星通信研修 嚙下障害をもつ患者の看護	福井県看護協会	2名
8月31日、9月14日	癌看護実践力向上研修	福井県看護協会	1名
9月2日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	3名
9月3日	日本看護学会学術集会	日本看護学会	2名
9月4日	福井循環器病院学習会	福井循環器病院	12名
9月5・19日、10月3日	看護師のためのマネジメントセミナー	日本医療企画	2名

	研修会名、講演会名等	主催	参加人数
9月6日	日本離床研究会教育講座	日本離床研究会	4名
9月10日	福井循環器病院学習会	福井循環器病院	13名
9月12日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	5名
9月12日	PSLS研修会	敦賀美方消防組合	12名
9月13日	災害支援ナース研修会	福井県看護協会	5名
8月31日、9月14日	癌看護実践力向上研修	福井県看護協会	1名
9月16日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	1名
9月18日	新人会員研修会	福井県看護連盟	6名
9月16・17日	看護職員リフレッシュ研修会(福井市、池田町)	福井県看護協会	9名
9月17日	福井県リスクマネージャー交流会	福井県看護協会	31名
9月27日	固定チームナーシング全国研究集会	固定チームナーシング研究会	3名
9月27日	心電図セミナー	メディカルシステム研修所	3名
9月29日	日本手術看護学会北陸地区研修(福井市)	手術学会北陸支部	4名
10月1日	二州高齢者包括ケア研究会	二州健康福祉センター	10名
10月4日	看護協会敦賀地区支部 ステップアップ糖尿病ケア	福井県看護協会	28名
10月6日	地域医療連携部研修会	福井県看護協会 福井大学	1名
10月8日	日本看護学会学術集会	日本看護学会	3名
10月9日	医療現場におけるリスクマネジメント入門	日本リスクマネジメント研修センター	2名
10月14日	看護実践能力育成研修	福井県看護協会	3名
10月16日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	3名
10月18日	第26回福井県糖尿病協会総会および糖尿病シンポジウム	福井県糖尿病協会 協賛 きらめき会	10名
10月24日	災害看護リーダー研修会	福井県看護協会	2名
10月25日	一般病棟における精神疾患患者の看護	福井県看護協会	3名
10月30日	東海北陸地区リスクマネージャー交流会	石川県看護協会	4名
10月28～30日	助産師実務研修	産科医療支援助産師活用事業	1名
11月4日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	3名
11月6・7日	東海北陸地区看護研究学会	福井県看護協会	26名
11月9・10日	北陸ブロックHIV/AIDS看護研修会	北陸ブロックAIDS拠点病院	1名
11月11日	看護実践能力育成研修	福井県看護協会	4名
11月13日	心電図モニタ講習会	日本光電	4名
11月13日	福井県看護協会福祉委員会講演会	福井県看護協会	1名
11月14日	第10回嶺南感染フォーラム	嶺南感染フォーラム	8名

	研修会名、講演会名等	主催	参加人数
11月20日	福井県臓器移植コーディネーター研修会	福井県臓器移植普及推進協議会	2名
11月28日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	8名
12月3日	看・看連携研修	福井県ナースセンター	3名
12月5日	福井大学医学部附属病院 看護部研修会	福井大学医学部附属病院	2名
12月6日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	9名
12月10日	看・看連携研修	福井県ナースセンター	13名
12月11・12日	福井県看護協会衛星通信研修	福井県看護協会	1名
12月15日	認定看護管理者制度ファーストレベル教育公開講座	福井県看護協会	4名
12月17日	看・看連携研修	福井県ナースセンター	6名
12月19日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	5名
1月9・29日	看・看連携研修	福井県ナースセンター	2名
1月27日	二州高齢者包括ケア研究会	二州健康福祉センター	1名
1月16日	福井県看護協会敦賀地区支部研修会	福井県看護協会	20名
2月6日	AED指導者講習会	福井県AED普及啓発協議会	2名
2月7日	全国自治体病院協議会接遇研修	全国自治体病院協議会	50名
2月13日	福井県看護協会定例研修会	福井県看護協会	10名
2月14日	リスク・フォーラム	日本リスクマネジメント協会	1名
2月26日	二州高齢者包括ケア研究会	二州健康福祉センター	1名
2月27日	助産師職能集会	福井県看護協会	7名
2月27日	JFCセミナー継続教育シリーズ	JFCヘルスケアマネジメント研究所	1名
3月13日	第27回福井県看護研究発表会	福井県看護協会	25名
3月26日	衛星通信研修 社会保険診療報酬改定説明会	福井県看護協会	2名
3月26日	福井県臓器移植コーディネーター研修会	福井県臓器移植普及推進協議会	2名

(3) 受講研修実績

	教育研修名	出張先	出張者名
4月	県市町職員新規採用職員研修	自治研修所	新規職員
5月	福井県院内移植コーディネーター研修会	福井県立病院	藤村 美智代・藤井 優子
6月	福井県看護協会「実習指導者会」	福井県看護協会	宇野 里奈・鳴海 里美
	平成21年度認定看護師教育課程皮膚排泄ケア分野	京都市	稲垣 香緒里
	平成21年度認定看護師教育課程緩和ケア分野	奈良県	仲間 有希
	平成21年度認定看護管理制度サードレベル	愛知県看護協会	角田 敬子
7月	福井県院内移植コーディネーター研修会	福井県庁	藤村 美智代・藤井 優子
	北陸ブロックHIV/AIDS看護教育	石川県	杉本 裕子
	日本看護学会学術集会 看護総合	京都市	奥 佐知子・植木 真粧美
	透析療法従事職員研修	さいたま市	小堀 沙織
8月	日本災害看護学会	神戸ポートピアホテル	井上 ひろみ
9月	平成21年度認定看護管理制度ファーストレベル	福井県看護協会	森永 雪野・小堀 和美
	日本糖尿病教育・看護学会学術集会	北海道	加藤 久代
10月	助産師実務研修	杏林大学医学部付属病院	杉本 裕子
	日本看護学会学術集会 成人看護 I	さいたま市	小林 奈未
	二州高齢者包括ケア研究会	敦賀市	城越 広恵
11月	福井県院内移植コーディネーター研修会	福井赤十字病院	藤村 美智代・藤井 優子
	平成21年度東海北陸地区看護研究学会	福井市	高橋 昌子
	世界糖尿病デー ブルーライトアップイベント	福井市	加藤 久代
2月	平成21年度海外視察研修	スペイン・フランス・イタリア	山田 幸代
3月	福井県院内移植コーディネーター研修会	国際交流会館	藤村 美智代・藤井 優子

【講師実績】

- 1 福井県看護協会「不妊外来定期相談」（加藤 つよ子）
- 2 福井県看護協会「看護職への道」（山口 里子）
- 3 福井県看護協会「看護師再就業講習会」（塚原 洋子 城越 広恵）
- 4 福井県糖尿病学術講演会（加藤 久代）
- 5 福井女性財団「子育て研修会」（城越 広恵）
- 6 福井県立敦賀高校社会人教師「トーク」（出雲 和代）
- 7 敦賀三方消防救急隊緊急分娩対応研修会（中西 真由美 平山 優子）
- 8 市立敦賀病院市民公開講座講師（加藤久代）
- 9 福井県糖尿病学術講演会講師（加藤久代）
- 10 福井県看護協会災害支援ナース研修（井上ひろみ）

【派遣実績】

- 1 敦賀市訪韓児童親善使節団派遣事業（今井 裕子）
- 2 福井県AED普及啓発協議会実習インストラクター（久保 幸子 前田 晶子）

【学会座長】

平成21年度東海北陸地区看護研究学会座長（城越 広恵 岡田 貴子）

VIII 臨床研修プログラム概要

＜平成21年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績＞

1 プログラムの名称

市立敦賀病院初期臨床研修プログラム

2 プログラムの目的と特徴

プライマリー・ケアを中心に、医師として必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を身に付け、患者とのコミュニケーションやチーム医療など医療人としての人格を涵養することがこの研修プログラムの目的です。

当院の卒後臨床研修は、協力型（金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院）および基幹型臨床研修病院として、病院群を形成し連携をとりながら研修を行います。また、地域保健における保健所などの研修をはじめとして、本院で行う各診療科のプログラムの一部を担うため、豊富な研修協力施設を設けています。

なお、当院の協力型研修は、金沢大学附属病院および福井大学医学部附属病院と各々たすきがけ方式を採用していますので、研修のコース選択によっては両大学病院の研修プログラムと全く同じか一部重複するところがあります。

3 研修方式および研修内容

当院、猪原病院、福井県二州健康福祉センターなどにおいて研修を行う。

(1) オリエンテーション

研修開始直後の数日間はオリエンテーションを行います。研修を円滑に実施できるよう、カルテの記載、インフォームド・コンセント、医療事故、院内感染、チーム医療、保険医療など、医療を行うために必要な事項を学びます。

(2) 基本科目研修

基本科目研修では、内科6ヶ月、外科3ヶ月、救急・麻酔科3ヶ月の研修を行います。

- ① 内科研修では、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、透析の内科領域の到達目標を達成できるようローテート研修をします。
- ② 外科研修では、外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリー・ケアが修得できるよう研修をします。
- ③ 麻酔科研修では、麻酔科医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。
 - ・ 患者の全身状態の把握の仕方と患者との接し方を会得する。
 - ・ 呼吸、循環、代謝などの全身管理学の基本を手術麻酔管理を通じて身に付ける。
 - ・ 手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得する。
 - ・ 疼痛を中心とした神経管理・除痛、調整、回復蘇生の技術を外来、手術室、病室において研修する。
- ④ 救急研修では、救急初期診療の実践訓練を主体とします。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスを含めて、救急室における初期診療全般に関して、救急・麻酔科医師の監督・指導のもとに実践します。また、ローテーション中に心肺蘇生のミニ訓練コース、外傷初期診療のミニ訓練コースを受講していただきます。

(3) 必修科目研修

2年目の必修科目研修では、小児科2ヶ月、産科婦人科2ヶ月、神経科精神科1ヶ月、整形外科1ヶ月、脳神経外科1ヶ月、地域・保健医療1ヶ月とし、残りの研修期間については研修医の希望によりコースを組み合わせる選択することができます。

- ① 小児科研修では、小児医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。
 - ・ 小児及び小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。
 - ・ 検診などを通して発育、発達についての知識を深める。
 - ・ 年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
 - ・ 母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。
- ② 産科婦人科研修では、一般患者全般を診るために必要な産科婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。
- ③ 神経科精神科研修では、精神疾患に対する診断、治療、予防についての健全な臨床的診断とそれに必要な知識を修得します。
- ④ 整形外科研修では、整形外科一般、新鮮外傷、脊椎疾患、関節疾患、手の疾患の基本的知識・技能を修得します。またスポーツ医学の意味を体験的に理解し、リハビリテーションの初期研修を行います。
- ⑤ 脳神経外科研修では、脳神経外科の初期診療として、急性期および慢性期の疾患の判断能力、すなわち、問診、神経学的検査、画像診断の技能を身に付けるとともに、術前術後管理を修得します。
- ⑥ 地域保健・医療研修では、次の4つの教育目標を修得します。
 - 地域医療：「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限度のものを身につける。
 - 地域保健：地域保健の推進機関としての健康福祉センター（保健所）の機能と役割を理解する。
 - 産業保健：職域における安全衛生管理の実際を理解する。
 - 国際保健：途上国を含む海外諸国の疾病構造の特徴を元に、必要な知識・技能を修得する。

(4) 選択科目研修

選択科目研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、将来の進路に合わせて研修医の自由選択により、当院の次の診療科から1～2科を選択して研修を行います。

内科（消化器、循環器、血液、アレルギー・膠原病、感染症、神経、脳血管障害、内分泌代謝、腎・透析・高血圧、呼吸器）、小児科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、神経科精神科、救急・麻酔科

4 研修協力病院・施設

地域の研修協力病院や研修協力施設と連携をとりながら効果的な研修を行います。これらの病院や施設には特色あるプログラムが用意されています。

- ・ 協力型臨床研修病院
 - 医療法人積善会 猪原病院（精神科）
 - 福井大学医学部附属病院救急部（救急部門）
- ・ 臨床研修協力施設
 - 福井県立病院救急部（救急部門）
 - 福井県二州健康福祉センター（地域保健・医療）
 - 福井県赤十字血液センター（地域保健・医療）
 - 医療法人保仁会 泉ヶ丘病院（地域保健・医療）
 - 美浜町東部診療所（地域保健・医療）

5 研修指導体制

研修の管理責任者は市立敦賀病院長であり、病院長のもとに研修管理委員会を置き、研修の計画から修了認定までを管理します。また研修期間中、プログラム及び研修医の指導・管理を担当するプログラム責任者、研修医を直接指導し評価を行う研修指導医を置きます。

(1) 研修管理委員会

研修管理委員会は、病院長、プログラム責任者、副プログラム責任者、各診療科研修実施責任者及び臨床研修協力病院、地域保健・医療を含めた研修協力施設の代表者及び事務責任者で組織し、臨床研修プログラム及び研修医の管理、評価等を行います。

(2) プログラム責任者

プログラム責任者は、研修プログラム全体を統括し、全研修期間を通して研修医の指導・管理を行います。また、1名の副プログラム責任者、各診療科及び各臨床研修協力病院に研修実施責任者を置き、当該診療科等の研修期間中プログラムを管理し、研修医の指導・管理を行います。

(3) 研修指導医

指導医は、研修プログラムに基づき直接研修医を指導し、研修医に対する評価を行います。指導医は臨床経験5年以上で、プライマリー・ケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者とし、診療科長の推薦により病院長が任命します。なお、研修協力病院及び研修協力施設の指導医はその病院又は施設の長に委ねます。

(4) 臨床研修の評価と修了認定

- ① 指導医は担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握し、研修実施責任者に報告します。
- ② 各診療科の研修実施責任者は、当該研修期間が終了したとき、研修医の目標到達状況をプログラム責任者及び研修管理委員会に報告します。
- ③ 研修管理委員会は、研修終了時に、勤務記録、行動目標や経験目標の到達度などで総合的な評価を行います。病院長は、研修管理委員会が臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証書を交付します。また、臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で研修医に通知します。

6 研修医の募集人員および選抜方法

基幹型研修プログラムを全国に公開し、マッチング方式により全国から募集します。大学病院との協力型研修の場合は、全国公募はありません。応募の窓口は卒後臨床研修センターとします。

(1) 募集人員

6名

(2) 選抜方法

研修医の選抜は、書類審査及び面接により行います。面接は夏季休暇期間中に複数回実施します。出願書類、選抜期日など詳細は決定次第発表します。

(3) 選考結果通知

医師臨床研修マッチングの結果により決定し、速やかに本人に通知します。

7 処遇

処遇については以下のとおりです。なお、研修協力病院における処遇は、当該病院の定めるところによります。

身分	臨時医師
給与	1年次 485,000円（平成20年1月1日現在） 2年次 500,900円（平成20年1月1日現在） （医師手当、地域手当、夜間救急医療業務手当、病院業務手当等を含む。）
その他手当	超過勤務手当、宿日直手当等
賞与	1年次 計 888,750円（平成20年1月1日現在） 2年次 計 1,382,170円（平成20年1月1日現在）
勤務時間	8時30分～17時15分
休日・休暇	土・日曜日、祝日、夏期休暇、年次休暇、特別休暇等（正職員に準ずる）
宿舎	あり
社会保険等	社会保険、厚生年金、労災保険、雇用保険適用
医師賠償責任保険	施設として加入
その他	学会、研修会の旅費および負担金の支給あり （海外旅費等の支給も別途あり）

8 臨床研修ローテーション表

・1年次 基本研修科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科			救急・麻酔科			内科			外科		

・2年次 必修科目および選択科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小児科		産婦人科		精神科	整形外科	脳神経外科	地域保健医療	選択科目			

<初期臨床研修医の採用状況>

年度	定員（基幹型）	採用数	出身大学
平成16年度	4	1	福井大学
平成17年度	4	4	福井大学(3)、金沢大学
平成18年度	4	3	福井大学(3)
平成19年度	6	2	福井大学、兵庫医科大学
平成20年度	6	6	福井大学(2)、金沢大学、山梨大学 昭和大学、慶応義塾大学
平成21年度	6	3	金沢大学、関西医科大学、広島大学
平成22年度	6	6	福井大学、金沢大学、東京大学 滋賀医科大学(2)、島根大学

参 考 资 料

市立敦賀病院中期経営計画

概 要

市立敦賀病院では、地域医療確保のため、市立敦賀病院の役割の明確化や経営改善を図ることを目的に、平成20年12月に中期経営計画を策定。

計画の期間は平成21年度から25年度までの5年間。

【役割】

(1) 急性期医療

二州地区（敦賀市、美浜町、若狭町の一部（旧三方町））の中核的病院として、診断や治療を主に担う急性期の医療を担う。

(2) 不採算・政策医療

救急医療や災害時医療、周産期医療、小児医療、がん、エイズなどの不採算、政策医療を担う。

(3) 地域医療連携推進

地域の医療機関との連携を推進する中心的役割を担う。

(4) 地域の医療水準向上

地域の医療水準の向上を図るため、高度医療機器の充実を図る。

(5) 人材育成

医師及び看護師などの人材育成の場を提供する。

【主な数値目標】

項 目	平成19年度 実績	平成20年度 見込	平成25年度 目標数値
経 常 収 支 比 率	95.0%	94.3%	98.2%
職 員 給 与 費 対 率 医 業 収 益 比 率	60.4%	59.1%	50.7%
病床利用率（332床）	78.5%	83.5%	84.3%

数値は公立病院改革ガイドラインの算出方法による。

【取り組み項目】

- (1) 人材の確保・育成
医師確保策の強化、医師事務作業補助者の配置充実、認定看護師の養成、教育・研修制度の充実、職場環境の改善
- (2) 医療機能の充実及び急性期病院としての確立
救急医療の維持・充実、高度医療機器の利用、整備、災害医療訓練の実施、透析センター対応規模の増加、DPC（診断群別定額払い方式）導入、クリティカルパス（治療計画書）の活用、平均在院日数の短縮、手術室における手術件数の増加、診療情報の電子化の推進、地域医療支援病院の承認、紹介率、逆紹介率の増加
- (3) 医療の質の向上
医療安全大会の開催、チーム医療の推進、病院機能評価認定更新（第三者評価）の活用
- (4) 患者サービスの向上
患者アンケートの実施、職員接遇研修会の実施、ボランティア養成講座への協力、かかりつけ医制度、救急受診方法の広報、病院情報の提供
- (5) 地域医療連携の充実
開放型病床利用率の向上、地域連携クリティカルパスの充実、退院支援の充実、初診時保険外併用療養費の検討
- (6) 診療体制、運営規模の適正化（運営規模は、当分の間332床で運営。）
診療体制及び運営規模の検討
- (7) 収入増加、経費削減・抑制
自費診療費の検討・見直し、差額病床の料金設定の検討・見直し、新規施設基準、加算等の取得、未収金回収業務委託の拡充、委託化の推進、委託業務の整理・統合、後発医薬品利用の推進、人間ドック利用者数の増加、駐車場の料金設定検討、診療科別損益等分析の活用
- (8) 意識改革
職員への経営状況の周知、職員の意欲向上

【点検・評価】

外部の委員を含めた点検・評価委員会を設置し、計画の実施状況を検証していく。

※ 詳細は、ホームページ上に公開してありますので、ご参照ください。

<http://tsuruga-hp.jp/index.php?id=50>

市立敦賀病院の患者権利章典

患者さんは、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は患者さんと医療従事者との互いの信頼関係の上に成り立つものであり、患者さんに主体的に参加していただくことが必要です。

当院では、このような考え方にに基づき、ここに「市立敦賀病院の患者権利章典」を制定します。

患者さんの権利

1 良質な医療を公平に受ける権利

社会的な地位、信条、障害の有無などに関わらず、良質な医療を公平に受ける権利があります。

2 個人の人格が尊重される権利

個人の人格、価値観などが尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

3 個人の情報やプライバシーが守られる権利

診療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります。

4 病気、検査、薬、治療方法などについて、十分な説明、情報提供を受ける権利

自分が受ける治療や検査の効果や危険性、薬の効果や副作用、他の治療方法の有無などについて、理解できるまで十分な説明を受ける権利があります。

5 治療方法などを自らの意思で選択する権利

十分な説明、情報提供を受けた上で、自分の治療計画を立てる過程に参加し、治療法などを自らの意思で選択する権利があります。その際、別の医療機関の意見（セカンド・オピニオン）を聞きたいというご希望も尊重します。

6 自分が受けている医療について知る権利

自分が受けている医療について不明なことがあれば、医療従事者に質問することができ、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

患者さんにしていただきたいこと

7 医療に関する説明に対し、十分理解できるまで質問してください

納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについては、十分理解できるまで質問してください。

8 自身の健康に関する情報を正確に提供してください

良質な医療を実現するために、医療従事者に対し、患者さん自身の健康に関する情報（家族歴、既往歴、アレルギーの有無など）をできるだけ正確に提供してください。

9 必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください

治療効果の向上のために、医療従事者とともに病気を治していくという姿勢で、必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください。

10 他の患者さんが適切な治療を受けられるように配慮してください

患者さんは通常の社会生活にはない制約を受けざるを得ない場合もあります。病院の規則などを守り、他の患者さんの治療や病院職員による業務などに支障を与えないよう配慮してください。

医療事故防止のための8カ条

第1条 医療従事者は、医療事故はいつでも起こりうるものであるという「危機意識」を常に持ち業務にあたる。

第2条 患者さん最優先の医療を徹底し、患者さん本位の医療を実践する。

第3条 業務にあたっては基本的事項の遵守と確認、再確認を徹底する。

第4条 患者さんとのコミュニケーションには十分配慮し、患者さんや家族への説明は、その内容が十分理解されるよう心がける。

第5条 診療に関する諸記録は正確かつ丁寧に記載するとともに、相互チェックを実施する。

第6条 自己の健康管理には十分留意し、万全の体制で業務にあたる。

第7条 職員の具体的、実践的な教育・研修を実施する。

第8条 病院管理者、所属長が率先して医療事故防止に対する意識改革を実践する。

病院年報編集委員会

編集委員長 米島 學

編集委員 杉浦 良啓 上田 裕朗

角田 敬子 小倉 和彦

桑村 典之 上塚 浩樹

粕谷 聡 宮川 朋史

市立敦賀病院年報（平成21年度）

平成22年9月21日発行

編集 病院年報編集委員会

発行 市立敦賀病院

〒914-8502 福井県敦賀市三島町1-6-60

TEL 0770-22-3611